

IV 平成27年度の実績

1 平成27年度事業の実績一覧

重 点	事業番号	平成27年度事業一覧	所管	掲載ページ	
(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	1	あおもりで「生きる・働く」を学ぶキャリア教育実践事業	《企画》	P. 56	
	2	子どもの読書活動推進事業	《企画》	P. 58	
	3	いじめ根絶キャンペーン推進事業	《企画》	P. 62	
	ア 青少年の体験活動の充実	4	子ども健康促進事業（地域で進めるすくすく青森っ子の育成）	《地域》	P. 63
	イ 地域が支えるキャリア教育の充実	5	障害者青年学級開設	《地域》	P. 64
		6	放課後子ども教室推進事業	《地域》	P. 65
	ウ 子どもの読書活動の充実	7	地域の豊かな社会資源を活用した土曜学習推進事業【新規】	《地域》	P. 68
	エ 地域全体で子どもを育む活動の充実	8	家庭教育支援推進事業	《地域》	P. 68
		9	障害者家庭教育学級開設	《地域》	P. 71
	オ 家庭教育支援の充実	10	若者の社会参加促進事業【新規】	《地域》	P. 72
		11	高大連携キャリアサポート推進事業	《社セ》	P. 74
		12	高校生スキルアッププログラム推進事業	《社セ》	P. 75
		13	未来の青森県を担う若人育成講座	《社セ》	P. 75
		14	学校と地域の協働実践セミナー	《社セ》	P. 77
		15	教員のための学校・家庭・地域連携講座	《社セ》	P. 78
		16	絆でつながる家庭教育支援セミナー	《社セ》	P. 78
		17	家庭教育支援コンテンツ制作事業	《社セ》	P. 80
		18	家庭教育相談事業	《社セ》	P. 81
		19	子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業	《図書》	P. 81
		20	高校生の読書活動推進のための図書セット貸出事業【新規】	《図書》	P. 82
		21	梵珠少年自然の家主催事業（親子のつどい、子どものつどい）	《梵珠》	P. 82
		22	自然体験活動支援事業	《梵珠》	P. 83
		23	在学少年宿泊指導者研修	《梵珠》	P. 84
		24	ファミリー防災キャンプ事業	《梵珠》	P. 84
		25	種差少年自然の家主催事業（自然と遊ぼう、こどもの祭典）	《種差》	P. 85
		26	自然体験活動支援事業	《種差》	P. 86
		27	在学少年宿泊指導者研修	《種差》	P. 86
		28	親子で学ぶ防災キャンプ事業	《種差》	P. 87

(2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成	29	市町村の社会教育活性化支援事業【新規】	《地域》	P. 88
	30	パワフルAOMORI!創造塾	《社セ》	P. 90
	31	公民館と住民のアシスト講座	《社セ》	P. 91
	32	生涯学習・社会教育関係職員研修講座	《社セ》	P. 92
ア 地域活動の実践者の育成				
イ 地域活動の指導者、コーディネーターの養成				
ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援				
(3) 一人一人の主體的な学習と社会参加の推進	33	アクティブシニアによる地域の未来応援事業【新規】	《企画》	P. 94
	34	県立学校開放事業	《企画》	P. 97
	35	あおもり県民カレッジ学習支援総合事業	《指定管理》	P. 97
	36	元気青森人を創造するeラーニング推進事業	《社セ》	P. 99
	37	学習情報の収集・提供事業	《社セ》	P. 99
	38	青森県視聴覚ライブラリー運営事業	《社セ》	P. 100
	39	ボランティア活動支援機関連絡会議	《社セ》	P. 101
	40	近代文学館特別展開催	《図書》	P. 101
	41	近代文学館企画展開催	《図書》	P. 102
	42	アウトリーチサービス推進事業	《図書》	P. 103
	(4) 社会教育推進のための基盤整備	43	生涯学習推進基盤整備事業 (生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会)	《企画》
44		生涯学習・社会教育総合調査研究事業	《企画》	P. 104
45		青森県社会教育委員の運営	《企画》	P. 105
46		市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県の社会教育行政」の作成	《企画》	P. 105
47		市町村の社会教育活性化支援事業【新規】(再掲)	《地域》	P. 105
48		社会教育主事派遣事業	《企画》	P. 105
49		生涯学習専門講座派遣事業	《企画》	P. 106
50		社会教育主事等一般研修	《企画》	P. 106
51		社会教育主事有資格者育成派遣事業	《企画》	P. 106
52		ボランティア関係機関職員養成講座	《社セ》	P. 106
53		在学青少年育成費補助事業	《地域》	P. 107
54		青森県連合青年団活動費補助事業	《地域》	P. 108
55		青森県地域婦人団体連合会補助事業	《地域》	P. 108
57		県立図書館資料整備	《図書》	P. 109
58		市町村立図書館等職員研修事業	《図書》	P. 109
ア 社会教育推進体制の充実				
イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進				
ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上				
エ 社会教育関係団体等の活動の支援				

【所管凡例】	《企画》生涯学習課企画振興グループ	《地域》生涯学習課地域連携推進グループ	《社セ》県総合社会教育センター
	《図書》県立図書館	《梵珠》県立梵珠少年自然の家	《種差》県立種差少年自然の家
	《事務》各教育事務所	《指定管理》指定管理者事業	

2 平成 27 年度事業の実績

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 青少年の体験活動の充実
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子どもの読書活動の充実
- エ 地域全体で子どもを育む活動の充実
- オ 家庭教育支援の充実

生涯学習課

あおもりで「生きる・働く」を学ぶキャリア教育実践事業

【事業目的及び概要】

子どもたちの自己肯定感を高め、将来の夢や希望に向け積極的に行動するよう促すため、地域産業による教育支援活動の促進、校種間の連携及び地域との連携を融合した実践研究等に取り組み、学校・地域・家庭におけるキャリア教育の一層の充実をめざす事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 地域からの教育活動支援体制の充実

ア 青森県キャリア教育推進協議会の運営

(ア) 第 1 回協議会 【開催日：6/2(火)、会場：県総合社会教育センター】

○内 容 平成 27 年度の事業内容及び各地区実行委員会の取組について

(イ) 第 2 回協議会 【開催日 10/22(木)、会場：教育委員会室】

○内 容 あおもりで「生きる・働く」を学ぶキャリア教育推進大会及びあおもりキャリア教育
応援企業表彰について

(ウ) 第 3 回協議会 【開催日：2/22(月)、会場：県総合社会教育センター】

○内 容 平成 27 年度の事業実施状況について

イ 地域産業による教育活動支援体制を充実させるための取組の実施

(ア) 教育 C S R セミナーの開催

○開催日：9/16(水)

○場所：県総合社会教育センター

○参加者：107 名

○内容

・基調講演

演題：「社会が担う人材の育成」

講師：公益社団法人経済同友会幹事 D I C 株式会社（旧大日本インキ化学工業株式会社）
相談役 杉江 和男

・企業等によるキャリア教育取組事例紹介

株式会社明治 東北支社 コミュニケーション課

課 長 利光 保則

社会医療法人博進会 南部病院 事務部

次 長 宮森 由貴江

青森市立浪打中学校

教 諭 熊澤 訓子

(イ) あおもりキャリア教育応援企業表彰（教育 C S R 表彰）の実施

○名称：「あおもりキャリア教育応援企業表彰」

○募集期間 8/3(月)～9/16(水)

○受賞企業・事業所等数：9 社・団体

株式会社メゾン（青森市）

東洋建物管理株式会社（青森市）

五所川原街づくり株式会社（五所川原市）

東奥信用金庫（弘前市）

特定非営利活動法人かなぎ元気倶楽部（五所川原市）

丸文さとう株式会社（青森市）

社会福祉法人青森社会福祉振興団（むつ市）

株式会社マエダ（むつ市）

有限会社ジークフリート弘前店（弘前市）

○表彰式：あおもりで「生きる・働く」を学ぶキャリア教育推進大会(11/18(水))にて実施

ウ キャリア教育実践を展開する各地区実行委員会への支援

○教育支援活動が可能な企業・NPO等の登録の実施

「我が社は学校教育サポーター」登録数 ※H28/3/31 現在

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八	県域	合計
登録数	229	117	132	125	109	126	27	865

(2) 家庭における意識啓発

ア 企業等における「働く背中をみせるキャンペーン」の実施

(ア)企業・事業所等に地域の子どもたちを対象とする職場参観日や職場見学等の実施を呼びかける。

○実施期間 7/1(火)～1/31(日)

○実施数 13 事業所

○参加者数 171 人

(イ)「あおもり子ども職場参観日 in 県庁」の実施

○開催日：7/30(木)

○参加者数 74 名 (うち子ども 44 名)

(3) あおもりで「生きる・働く」を学ぶ実践活動の展開

地域の特色を生かしたキャリア教育実践の充実のために県内 6 地区に実行委員会を設置し、地域産業による出前授業等のコーディネートによる教育支援活動、社会教育施設等におけるモデル事業、企業等による教育支援プログラムの開発の支援等を行った。

ア 6 地区実行委員会の設置

・東青、西北、中南、上北、下北、三八地区にそれぞれ実行委員会を設置

イ 出前授業、職場体験活動など地域産業による学校への教育支援活動の仲介の成果

○平成 27 年度実績 延べ 81 校

地区	地区別のべ数	校種別				内容別		
		小学校	中学校	高等学校	特支他	出前授業	職場見学	職業体験
東青	20	1	17	1	1	5	0	15
西北	6	3	2	1	0	5	0	1
中南	10	1	2	1	6	1	1	8
上北	25	21	3	1	0	21	1	3
下北	8	7	1	0	0	8	0	0
三八	12	1	10	1	0	11	1	0
総計	81	34	35	5	7	51	3	27
		81				81		

ウ 教育支援活動推進員の発掘及び研修の実施

○平成 27 年度教育支援活動推進員数 30 名

地区別の教育支援活動推進員一覧

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八	合計
人数	11 名	2 名	4 名	1 名	9 名	3 名	30 名

(4) 啓発と成果の普及

ア 「あおもりで「生きる・働く」を学ぶキャリア教育推進大会」の開催

学校・地域・家庭の連携によるこれからのキャリア教育の在り方について考え、新たな実践への第一歩となることをめざして実施。

○開催日 11/18(水)

○会場 県総合学校教育センター

○対象 学校教職員、PTA関係者、企業・事業所・NPO等の職員、県及び市町村職員、及びキャリア教育や教育支援活動に関心がある一般県民

○参加者 196 名

○内容

・「あおもりキャリア教育応援企業表彰」表彰式

- ・講演
演題 「学校におけるキャリア教育に対する地域からの支援」
講師 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重 幸恵
- ・提案！我が社の教育支援
内容 企業の出前授業、職場体験についてポスターセッションを実施
出展企業・事業所等数 31社・団体
- ・キャリア教育実践発表 研究指定校 12校 地区実行委員会 6地区

イ ポータルサイトの開設・運営

- ページ名：「生きる」「働く」「学ぶ」をつなぐ 青森県のキャリア教育 総合ポータルサイト
- URL：<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/career-edu.html>

【成果と課題】

各地区実行委員会では、企業等の支援による学校への出前授業仲介活動、社会教育施設等におけるキャリア教育実践活動を通し、地域の特色を生かしたキャリア教育の実践が着実に進んだ。

また、あおもり子ども職場参観日、教育CSRセミナー、あおもりキャリア教育応援企業表彰を通して、教育CSR※に対する企業の理解は着実に進んでいるが、なお一層の啓発を図っていく必要がある。

あおもりで「生きる・働く」を学ぶキャリア教育推進大会では、参加者からは、今後地域からのキャリア教育の進め方について参考になった、地域社会との連携をより深くしていきたいという声が聞かれた。

今後の課題は、我が社は学校教育サポーターに登録はしているが、学校教育支援を具体的にどのようにすべきか考えている企業に対するフォローやアプローチを進めることである。そこで、企業と学校の橋渡し役として活動している教育支援活動推進員や学校支援ボランティア等を中心とした取組が重要であるため、関係者のより一層のコーディネート力の向上等が必要となってくる。

※企業が社会を構成する一員として主に教育活動に参加することを「教育CSR」と呼んでいる。

子どもの読書活動推進事業

【事業目的及び概要】

平成26年度に策定した「青森県子ども読書活動推進計画（第三次）」に基づき、読書に親しみ自主的に読書活動をする子どもたちを育てるため、家庭・地域・学校が連携して、子どもが読書に親しむ機会の充実、環境の整備・充実、理解と関心の普及啓発を進める取組を展開する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 乳幼児期からの読み聞かせ活動の推進

ア 小学校における読み聞かせボランティア活動の促進

小学校で開催される研修会等が、学校PTAに対し読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さについて理解を深める機会となるように、13校に「親子ふれあい読書アドバイザー」を派遣した。

	学校名	実施日	派遣アドバイザー	内容	参加者数
1	五戸町立 倉石小学校	6/3 (火)	前田 敏子	参観日の授業後、PTA主催の家庭教育についての講演会 ・読書活動啓発についての講演	96名
2	青森市立 野内小学校	7/1 (水)	大友 栄子	参観日での全校保護者参加の「すこやか会議」 ・読み聞かせの実演（全校児童、保護者対象） ・読み聞かせの留意点（保護者対象）	118名
3	つがる市立 富苑小学校	7/2 (木)	北澤 由美子	参観日での家庭教育学級における講演 ・本を通しての親子のふれあい ・読み聞かせに適したおすすめの本の紹介 ・読み聞かせの実演	50名

4	階上町立 小舟渡小学校	7/8 (水)	前田 敏子	参観日での読み聞かせの実演と講演 ・授業での読み聞かせ (対象:全校児童、保護者、教員) ・読み聞かせの効果についての講演 (対象:保護者、教員)	41名
5	青森市立 浦町小学校	7/13 (月)	三浦 恵美	読み聞かせボランティアの研修会 ・講義 読み聞かせの意義と教育的効果 ・読み聞かせに当たっての留意点 ・図書を選定に当たって	10名
6	弘前市立 三和小学校	8/16 (日)	秋田 敏博	P T A成人教育委員会の家庭学級 ・読み聞かせの実演 ・読み聞かせの方法について(講義・演習)	16名
7	大間町立 大間小学校	9/25 (金)	越膳 昌子	読み聞かせの実演と研修会 ・読み聞かせの実演 (対象:児童、保護者、地域の方) ・研修会(読み聞かせの留意点等) (対象:保護者、地域の方、教職員)	135名
8	つがる市立 柏小学校	9/27 (日)	秋田 敏博	参観日での読み聞かせの実演 (対象:1学年児童、保護者)	100名
9	青森市立 小柳小学校	11/5 (木)	大友 栄子	読み聞かせの実演と研修会 ・読み聞かせの実演(対象:2学年児童、保護者) ・選書の仕方、家庭における読書の取り組み方について(対象:保護者)	91名
10	つがる市立 牛潟小学校	12/2 (水)	北澤 由美子	参観日での全体会における読み聞かせの実演と講話(対象:保護者、教員) ・読み聞かせの実演 ・読み聞かせの効果・大切さについての講話	50名
11	弘前市立 第三大成小学校	12/2 (水)	高嶋 敬子	授業参観後の学年懇談での講話 (対象:1学年保護者) ・読み聞かせの大切さ、留意点、おすすめの絵本の紹介 ・読み聞かせの実演	20名
12	横浜町立 南部小学校	12/2 (水)	岩本 ヤヨエ	P T A家庭教育学級(対象:保護者、教職員) ・読み聞かせの実演 ・講話「読み気汗ボランティアを始めよう」	30名
13	階上町立 道仏小学校	12/8 (火)	舘松 まき子	読み聞かせボランティア研修会 ・5・6年生への読み聞かせの実演 ・読み聞かせワークショップ(実演、講話)	5名

イ 「親子ふれあい読書アドバイザー」の新規養成及び読み聞かせ実践者のスキルアップ
青森県読書団体連絡協議会の各地区事務局と連携した研修会を開催し、親子ふれあい読書アドバイザーを新たに34名養成、登録した。(累計415名)

地区	開催日	会場	内 容	受講者数	実参加者数
中南	10/2 (金)	平川市文化センター	〈親子ふれあい読書アドバイザー研修〉 ・親子ふれあい読書アドバイザーの実際 講師：岩崎 眞里子（おはなしむくむく代表）	21名	30名
			〈読み聞かせ研修会〉 ・プロに学ぶ朗読のコツ「はなすということ」 講師：奥村 潮（フリーアナウンサー）	27名	
下北	10/15 (木)	むつ市脇野沢公民館	〈親子ふれあい読書アドバイザー研修〉 ・アドバイザーとしての活動や心構えについて 講師：越膳 昌子（読み聞かせボランティアネットワーク「おはなしの木」）	11名	11名
			〈読み聞かせ研修会〉 ・読み聞かせの基礎や選書、プログラムの作り方など 講師：越膳 昌子（読み聞かせボランティアネットワーク「おはなしの木」）	11名	
西北	10/17 (土)	中泊町総合文化センター	〈読み聞かせ経験者報告会〉 報告者：須藤 丈尋（鶴田町）他6名	27名	36名
			〈読み聞かせ研修・親子ふれあい読書アドバイザー養成講座〉 ・講義「とっておきのお話」 講師：秋田 敏博（おはなしちゃんこなべ）	36名	
東青	10/24 (土)	蓬田村ふるさと総合センター	〈親子ふれあい読書アドバイザー研修・読み聞かせの研修〉 ・保護者会でお話する内容・方法 ・読み聞かせのコツ、絵本の選び方 講師：秋田 敏博（おはなしちゃんこなべ）	18名	27名
			〈昔話に出てくる団子ってどんな団子？こんな団子！〉 ・調理実習 講師：泉谷 ちゑ子（赤いとまと代表）	25名	
上北	11/7 (土)	十和田市民図書館	〈親子ふれあい読書アドバイザー研修〉 ・保護者会などでお話する内容や方法など 講師：語りの会「こま草」	24名	24名
			〈読み聞かせ研修会〉 ・読み聞かせの実演により、活動社としての力をアップ 講師：語りの会「こま草」	24名	
三八	12/1 (火)	八戸市総合福祉会館	〈親子ふれあい読書アドバイザー研修〉 ・講義と実演（基礎編） 「本の持ち方など読み聞かせのいろはから」 講師：秋田 敏博（おはなしちゃんこなべ）	54名	62名
			〈読み聞かせ研修会〉 ・実演と作成 パネルシアターについて 「楽しい読み聞かせ会にするために」 講師：佐々木 和子（八戸童話会） ・パネルシアター上演時の著作権について 講師：磯嶋 奈都子（八戸市立図書館司書）	31名	
計					190名

ウ 啓発小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」の活用促進

乳幼児の保護者等に向けた子どもの読書活動啓発のための小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」を市町村が行うブックスタート事業等での活用のために提供したほか、幼稚園・保育所等で開催される保護者研修会や読み聞かせ研修会等に、テキストとして提供した。また、研修会等の主催者が希望した場合、「親子ふれあい読書アドバイザー」を講師として紹介した。

- 小冊子提供数 延べ5,847冊
 - ・ブックスタート事業等への提供：11市町村 4,790冊
 - ・保護者研修会等への提供：14か所（12市町村） 735冊
- 親子ふれあい読書アドバイザーの紹介 延べ7人
- ・小学校への提供（小学校へのアドバイザー派遣）：442冊

(2) 読書離れへの対応に係る研修会等の開催

高校生の読書活動推進のため青森県高等学校教育研究会図書館部会等と連携し、学校図書館担当教職員を対象に、学校図書館の運営方法について研修会を開催した。

- 開催日：11/25（水）
- 場所：県立図書館 研修室
- 参加人数：30名
- 内容：講演「楽しい学校図書館 楽しい図書委員会活動」
講師 木村 とも子（秋田県立六郷高等学校 学校司書）

(3) 子どもの読書活動推進に係る普及・啓発

ア 子どもの読書活動推進大会の開催

子どもの読書習慣の形成と豊かな心の育成を図る機運を高めるため、一般県民、市町村図書館関係職員、教職員を対象に子どもの読書活動推進大会を県内2か所で開催した。

- 開催日及び場所：9/26（土）八戸市立小中野公民館
10/10（土）つがる市生涯学習交流センター 松の館
- 参加人数：八戸大会 86名
つがる大会 82名
- 内容等：講演会 講師 作家 高橋 弘希
パネルディスカッション

内 容		
行政説明	青森県子ども読書活動推進計画（第三次）について	
講 演	講師：作家 高橋 弘希 氏 （青森県生まれ。第46回新潮新人賞受賞 2期連続芥川賞候補） 演題『子どもに楽しい読書体験を！』	
事例発表	パネルディスカッション	
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【八戸市】</p> <p>コーディネーター 八戸学院短期大学学長補佐 茂木 典子</p> <p>パネリスト 東北町立上北小学校図書館司書補 蛭名 則子 東北町立図書館学校図書館司書 和田 悦子 おはなしちゃんこなべ 会員 秋田 敏博 三沢市立図書館 館長 船田 均</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【つがる市】</p> <p>コーディネーター 青森県読書団体連絡協議会会長 西村 恵美子</p> <p>パネリスト 東北町立上北小学校図書館司書補 蛭名 則子 東北町立千曳小学校図書館司書補 山中 綾子 こでまりの会 代表 澤田 田鶴子 野辺地町立図書館 調整監 鳥谷部 則子</p> </td> </tr> </table>	<p>【八戸市】</p> <p>コーディネーター 八戸学院短期大学学長補佐 茂木 典子</p> <p>パネリスト 東北町立上北小学校図書館司書補 蛭名 則子 東北町立図書館学校図書館司書 和田 悦子 おはなしちゃんこなべ 会員 秋田 敏博 三沢市立図書館 館長 船田 均</p>
<p>【八戸市】</p> <p>コーディネーター 八戸学院短期大学学長補佐 茂木 典子</p> <p>パネリスト 東北町立上北小学校図書館司書補 蛭名 則子 東北町立図書館学校図書館司書 和田 悦子 おはなしちゃんこなべ 会員 秋田 敏博 三沢市立図書館 館長 船田 均</p>	<p>【つがる市】</p> <p>コーディネーター 青森県読書団体連絡協議会会長 西村 恵美子</p> <p>パネリスト 東北町立上北小学校図書館司書補 蛭名 則子 東北町立千曳小学校図書館司書補 山中 綾子 こでまりの会 代表 澤田 田鶴子 野辺地町立図書館 調整監 鳥谷部 則子</p>	
<p>展示コーナー 講演講師、演題に関する参考図書、発表者の事例紹介、地区内の読書団体の活動紹介、地区内の図書館におけるイベント紹介等のコーナーを設置</p>		

イ 第三次計画周知のためのリーフレットの作成

青森県子ども読書活動推進計画（第三次）の内容を広く県民に周知するため、リーフレットを1,000部作成し、関係機関や図書館、学校等に配布した。

【成果と課題】

小学校への「親子ふれあい読書アドバイザー」の派遣では、PTAに対し読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さについて理解を深める機会となるよう参観日に合わせて研修会を実施するなど各校で工夫が見られた。また、派遣した親子ふれあい読書アドバイザーと学校が継続して連携していく動きも見られた。

「親子ふれあい読書アドバイザー」の新規養成及び読み聞かせ実践者のスキルアップでは、青森県読書団体連絡協議会各地区事務局への委託により実施し、地域の実態に合わせた内容の学びとなり、新たな読み聞かせ団体ができるきっかけとなった地域もある。

子どもの読書活動推進大会では、県内2か所で実施したことにより、より多くの県民に青森県子ども読書活動推進計画（第三次）や子どもの読書活動推進のための環境整備に家庭・地域・学校で取り組むことの必要性を伝えることができた。

今後の課題として、「親子ふれあい読書アドバイザー」の活用促進を図る必要がある。また、アドバイザー同士の意見交換等の機会を設定するなどして、アドバイザー同士のネットワークづくりをしていく必要がある。また、引き続き中・高校生の読者離れへの対応が必要である。

いじめ根絶キャンペーン推進事業

【事業目的及び概要】

学校・家庭・地域社会すべてにおいて、子どもの人権に関わる理解と認識を深めるため、いじめ根絶等に向けた県民レベルの具体的な取組を一層強化するとともに、県民に対するキャンペーン等を幅広く展開する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) いじめ根絶CM原作コンクール

県内の中学生、高校生、一般からいじめ根絶テレビCMの原作を募集した。

○募集期間：5/7（木）～7/3（金）

○応募数：302点（中学校282点、高等学校20点）

※参考 平成23年度からの応募数（平成25年度から一般を募集対象に追加）

年度	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	学校数	作品数								
中学校	22	517	24	533	19	270	23	464	16	282
高校	5	22	13	46	4	19	5	23	12	20
一般						3		2		0
合計	27	539	37	579	23	292	28	489	28	302

(2) いじめ根絶キャンペーンCM原作コンクール審査会

応募作品の中から優秀作品9本を選定し、表彰した。

○開催日：7/23（木）

○受賞作品一覧

	学校名	団体、個人の別	学年・氏名・団体名	作品名
中学校	黒石市立黒石中学校	個人	2年 佐藤 乃亜	「三猿」じゃなくて
	青森市立浪岡中学校	個人	3年 我満 真琴	悪口ではなくて・・・
	平内町立小湊中学校	個人	2年 竹内 麻雅	1歩、踏み出そう
	むつ市立大平中学校	個人	2年 伊藤 雛	こんな私の勇気
	青森市立佃中学校	個人	3年 高坂 勇太	大事な物までなくす前に
	青森市立沖館中学校	個人	3年 早川 和輝	想うこと
高校	青森県立野辺地高等学校	個人	3年 横田 いずみ	(無題)
	青森県立むつ工業高等学校	個人	3年 菅野 陽菜	流されない
	青森県立板柳高等学校	個人	2年 澁谷 愛里	Violence of word

(3) 「いじめ根絶キャンペーン」テレビCM制作・放送業務委託企画審査会

企画審査会参加業者が各々優秀作品9本から選んだ1本を原案としたいじめ根絶CMの企画を提

案し、審査によりCM原案1点を選定した。

- 開催日：9/9（水）
- 企画名：「三猿」じゃなくて
- 制作：株式会社アール・エー・ビーサービス
- 放送：青森放送株式会社

(4) 「いじめ根絶キャンペーン」テレビCM

ア 放送

- 県放送分：67回 11/1（日）～30（月）までの1ヶ月間放送
- 独自提案分：36回 県放送分と同時期に放送

イ CM放送に併せた独自取組

- 放送業者HPへのバナー広告(11/1～30)
- 情報番組内でのCM等の紹介(2回)
- 天気予報コーナーでのキャンペーンの紹介(6回)

(5) キャンペーンCMをYoutubeにて配信

【成果と課題】

いじめ根絶CM原作コンクールでは、CM原作を考えることでいじめ根絶に向けた認識を深めることができた。

また、CM放送では、取組を周知・広報することにより、幅広い展開及び県民意識の高揚につなげることができた。

今後は、家庭や地域が連携し、いじめ防止等に取り組む必要があることから、PTA連合会等と連携し、いかなるいじめも許さないという人権教育の精神を育む機会を促進していく必要がある。

子ども健康促進事業（地域で進めるすくすく青森っ子育成事業）

【事業目的及び概要】

肥満傾向児の出現率を低下させることを目的に、家庭と地域と連携し、学校教育活動以外の場面での運動量の増加と家庭における食育の推進を図る取組を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 遊びのマスター派遣

普段の遊びや学校教育活動以外の場面において、子どもの運動量を増やすことを目的に、体を動かすことが楽しくなるような活動を指導する講師を、放課後子ども教室や放課後児童クラブ等の子どもたちが週末や放課後に過ごす場に派遣した。

18市町村、計23回

No.	市町村名	期 日	会 場	参加者数	種 別
1	外ヶ浜町	9/19(土)	外ヶ浜町中央公民館	19名	子ども教室
2	蓬田村	7/24(金)	蓬田村ふるさと総合センター	17名	子ども会事業
3	鱒ヶ沢町	1/7(木)	舞戸公民館	31名	児童クラブ
4	深浦町	12/25(金)	深浦町民体育館	44名	子ども教室
5	板柳町	9/19(土)	板柳町公民館講座室	28名	児童クラブ
6	鶴田町	10/26(月)	鶴田町農業環境改善センター豊明館	33名	子ども教室
7	平川市	3/5(土)	柏木小学校体育館	6名	子ども教室・児童クラブ
8	藤崎町	8/22(土)	藤崎町農業者トレーニングセンター	15名	子ども教室
9	田舎館村	9/26(土)	田舎館中央児童館、田舎館村民体育館	32名	児童クラブ
10	十和田市	10/22(木)	高清水小学校体育館	18名	子ども教室
11	七戸町	2/24(水)	天間西小学校体育館	28名	子ども教室
12	おいらせ町	1/8(金)	百石小学校体育館	71名	子ども教室・児童クラブ
		2/27(土)	甲洋小学校体育館	84名	子ども教室・児童クラブ
13	六戸町	8/4(火)	大曲小学校学童保育所	60名	児童クラブ
		12/25(金)	六戸児童館	60名	児童クラブ
14	むつ市	8/11(火)	北の防人大湊安渡館	20名	児童クラブ

15	風間浦村	7/29(水)	下風呂小学校体育館	26名	子ども教室
16	佐井村	8/4(火)	佐井小学校体育館	7名	子ども教室
17	八戸市	10/24(土)	八戸市立東公民館	21名	子ども教室
		1/30(土)	八戸市立根岸公民館	15名	子ども教室
18	田子町	7/18(土)	田子小学校体育館	30名	児童クラブ
		9/26(土)	上郷公民館	14名	児童クラブ
		2/27(土)	上郷公民館	4名	児童クラブ

(2) 食卓から子どものヘルスアップセミナー

子どもの食習慣については、祖父母世代（親世代も含む）を対象に、子どもたちの健康と食に関する課題の理解や家庭での食生活の見直しにつながるセミナーを県内6地区で開催した。

(3) 親子健康キャンプ

望ましい運動習慣と食習慣、生活習慣の形成のため、梵珠少年自然の家、種差少年自然の家及びむつ市下北自然の家を会場に、親子で宿泊し、望ましい食体験や運動体験、健康に関わる講話を聞く等の活動を行った。

[成果と課題]

家庭や地域と連携した取組を通して、学校教育以外の場面での運動量の増加と家庭における食育の推進を図ることができた。

今後は、市町村や関係機関等が主体となり、引き続き子どもたちの健康づくりに取り組むことが望まれる。

障害者青年学級開設

[事業目的及び概要]

特別支援学校卒業後の障害のある青年たちが自立と社会参加を支援し社会性の向上をめざすことを目的として、集団学習や趣味の講座、障害者スポーツを通して他の卒業生や在校生、学校のある地域の人たちなどと交流する機会を提供する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 社会参加学習

開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容
青森第二養護学校	5	14	104	運動会参加、ボウリング、二養祭参加、会報の発行
青森若葉養護学校	3	10	33	運動会参加、親睦旅行、閉級式
青森第一高等養護学校	3	9	110	ヨガ、めいせい祭参加
青森第二高等養護学校	4	17	275	二高養祭参加、地域ブロック活動（研修会、情報交換会）、同窓生の集い
県立盲学校	4	12	27	運動会参加点字ブロック理解への呼びかけ、県盲祭参加
浪岡養護学校	12	22	166	運動会参加、PTA研修、重訪部クラス会、成人を祝う会、浪養祭参加、音楽鑑賞教室、お菓子作り教室
弘前第一養護学校	4	19	100	運動会参加、総会・親睦会、親睦旅行、学習発表会鑑賞
弘前第二養護学校	5	17	99	運動会参加、合同ねふた祭り参加、同窓会参加、ふれあいコンサート、学習発表会参加
八戸第一養護学校	3	13	139	レクリエーション、成人を祝う会・夏を楽しむ会、高等部祭見学会
八戸第二養護学校	2	10	329	卒業生の集い、卒業生と在校生の交流会、高校生ボランティアとの交流会
八戸盲学校	6	19	66	組織作り、スポーツ体験（フロアバレーボール）、芸術教室、学習発表会参観・参加

開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容
森田養護学校	3	12	68	スポーツ体験（ダンス）、森養祭への参加、バス遠足（公共機関の利用）
黒石養護学校	2	8	87	開級式、映画鑑賞、軽スポーツ「エアロビクス」、親睦旅行（公共の場でのマナーを学ぶ）
七戸養護学校	3	13	157	同窓会総会、成人を祝う会、レクリエーション
むつ養護学校	3	11	134	運動会参加、スポーツレクリエーション、ふれあいボウリング大会
合計	のべ回数 62 回 のべ時間 206 時間			参加者数合計 1,894 名

(2) スポーツ体験交流

参加対象：青年学級生と児童生徒や地域住民 等

実施日	開催場所	参加者数	内容
7/14（火）	弘前第一養護学校	25名	ボッチャ教室
7/26（日）	浪岡養護学校	17名	ボッチャ教室
8/ 2（日）	青森第二高等養護学校	65名	ニュースポーツ教室 カローリングほか
9/27（日）	黒石養護学校	51名	フライングディスク教室
10/ 3（日）	八戸盲学校	18名	グラウンドゴルフ教室
10/21（水）	青森第一高等養護学校	30名	ボッチャ教室
11/28（土）	青森若葉養護学校	18名	ニュースポーツ教室 フライングディスクほか
12/12（土）	青森第二養護学校	51名	ニュースポーツ教室 ミニボーリングほか
合計	開催回数 8回	参加者数合計 275名	

【成果と課題】

青年学級は、卒業生の動向や近況を知る上でとてもよい機会となっている。

参加者からは、「この機会を楽しみにしている。今後もこのような集まりにもっと参加したい。」など積極的な意見も出ている。家庭教育学級と同時に行うことで、世代を超えての交流や、より地域の方と交流ができたり、青年学級を知ってもらうよいきっかけとなった。また、高校生や大学生ボランティア等の参加がありその方々と交流することは、障害者を理解する上でとても有意義な機会となっている。

「スポーツ体験交流」については、普段、体を動かす機会の少ない卒業生にとっては「スポーツ体験」をすることで、余暇に繋がる貴重な活動となっている。

今年度初の試みとして八戸盲学校、八戸聾学校の共催で「スポーツ体験交流」を行い、世代や障害種の枠を超えた交流の場となった。他校との交流や世代を超えた交流を行うために、障害種や天候等に左右されない内容や参加者が参加しやすい工夫が必要である。

放課後子ども教室推進事業

【事業目的及び概要】

子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的として、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所を設け、スポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民と交流活動等の取組を実施する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 放課後子ども総合プラン推進委員会

行政関係者、学校関係者、社会教育関係者、福祉関係者、学識経験者、事業関係者等で構成し、全児童の放課後対策の諸課題について協議するとともに、放課後対策事業の実施方針、安全管理方策、広報活動方策の策定や、指導者研修の内容検討、事業実施後の検証・評価等を行った。

ア 平成27年度青森県放課後子ども総合プラン推進委員会委員名簿

No.	氏名	所属等	備考
1	戸塚 学	弘前大学教育学部 学部長	会長
2	齋藤 厚	弘前大学教育学部 特任教授	副会長
3	伊藤 郁子	今別町立今別小学校 校長	
4	横田 渉子	青森県PTA連合会 代議員	
5	宮里 幸子	七戸町教育委員会 放課後子ども教室コーディネーター	
6	柿崎 哲男	青森県児童館連絡協議会 会長	
7	山田 由紀子	こみなと放課後児童クラブ 主任指導員	
8	貝吹 彰穂	館なかよしクラブ 代表者	
9	鈴木 卓治	弘前市教育委員会生涯学習課 課長	
10	加藤 久美子	佐井村教育委員会生涯学習課 主査	
11	竹内 拓人	五所川原市福祉部家庭福祉課 課長	
12	町田 徳子	青森県発達障害者支援センター 副所長	

イ 回数：2回

(2) 指導者研修

放課後子ども教室関係者と児童クラブ関係者等を対象とした指導員研修を実施した。

ア 放課後子ども総合プランコーディネーター等研修

○主管：県総合社会教育センター

○参加人数：計259名

○内容等

6/4(木)

講義・演習「保護者との関わり方や対応の仕方」

一般財団法人児童健全育成推進財団 課長 阿南 健太郎

6/5(金)

講義「放課後子ども総合プランにおけるコーディネーターの役割」

弘前大学生涯学習教育センター 講師 深作 拓郎

情報交換「放課後子ども教室等における現状と課題」

県総合社会教育センター職員

イ 放課後子ども総合プラン指導員等研修

○主管：各教育事務所

○参加人数：計1,184名

東青	前期	<p>【開催日】 6/23(火) 【会場】 県総合社会教育センター 【参加人数】 83名</p> <p>【内容】 講演・実習 「簡単な体を動かす遊びのプログラム」</p> <p>NPO法人スポネット弘前 理事長 鹿内 葵</p>
	後期	<p>【開催日】 9/17(木) 【会場】 県総合社会教育センター 【参加人数】 158名</p> <p>【内容】 講義・グループ協議 「特別な支援を必要とする子の理解と対応」</p> <p>青森県発達障害者支援センター「ステップ」 副所長 町田 徳子</p>

西北	前期	【開催日】 6/9(火) 【会場】 つがる市生涯学習交流センター「松の館」【参加人数】 106名 【内容】 講義・演習「おこらずに伸ばすコーチングの手法を覚えよう」 情報交換「児童クラブや子ども教室等での、これからの私」 NPO法人スポネット弘前 理事長 鹿内 葵
	後期	【開催日】 10/13(火) 【会場】 つがる市生涯学習交流センター「松の館」【参加人数】 87名 【内容】 実技「レッツ エンジョイ！自然大好きっず」 青森県立梵珠少年自然の家 社会教育主事 横山 仁志 社会教育主事 佐藤 純子
中 南	前期	【開催日】 7/9(木) 【会場】 弘前市立中央公民館岩木館 【参加人数】 77名 【内容】 講義・演習「発達障害の理解と、ともに学べる機会づくりを目指して」 NPO法人夢 発達障害サポートセンターY o u M e 理事長代行 前田 淳裕
	後期	【開催日】 9/16(水) 【会場】 弘前市立中央公民館岩木館 【参加人数】 73名 【内容】 講義・実技「室内で楽しむかんたん工作プログラム」 青森県立三沢航空科学館 科学実験工房インストラクター 盛田 洋介 科学実験工房インストラクター 小笠原 隆史
上 北	前期	【開催日】 6/9(火) 【会場】 七戸中央公民館 【参加人数】 139名 【内容】 講義・実技「ものづくり」～簡単にできる 遊べる 工作～ 青森県立三沢航空科学館 地域連携グループマネージャー 名久井 正廣
	後期	【開催日】 9/15(火) 【会場】 七戸中央公民館 【参加人数】 131名 【内容】 講義・グループ協議 「特別な支援の必要な子どもへの関わり方」～あなたはどうか対応するⅡ～ NPO法人夢 発達障害サポートセンターY o u M e 理事長代行 前田 淳裕
下 北	前期	【開催日】 6/16(火) 【会場】 むつ市中央公民館 【参加人数】 80名 【内容】 講義・演習 「特別な支援の必要な子どもへの関わり方」～あなたはどうか対応する～ NPO法人夢 発達障害サポートセンターY o u M e 理事長代行 前田 淳裕
	後期	【開催日】 10/14(水) 【会場】 むつ来さまい館 【参加人数】 57名 【内容】 実技「ワクワクドキドキ科学実験工房」～みんなで楽しく科学で遊ぼう～ 青森県立三沢航空科学館 インストラクター 盛田 洋介 インストラクター 月館 晋一
三 八	前期	【開催日】 5/19(火) 【会場】 八戸市福祉公民館 【参加人数】 99名 【内容】 講義・演習「子どもに起こりやすい怪我や事故への手当と予防」 日本赤十字社青森県支部 事業推進課 課長 吉川 靖之
	後期	【開催日】 10/6(火) 【会場】 八戸市福祉公民館 【参加人数】 94名 【内容】 講演・実技 「すぐに活用できるレクリエーション～楽しく学んで、しっかり実践～」 青森県レクリエーション協会 副会長 高橋 昌樹

(3) 放課後子ども教室推進事業費補助

放課後子ども教室推進事業を実施する市町村（中核市の青森市を除く）に補助金を交付した。

○実施市町村：24 市町村（86 教室）

平内町 外ヶ浜町 今別町 深浦町 中泊町 鶴田町 弘前市 平川市 藤崎町
大鰐町 十和田市 七戸町 おいらせ町 六戸町 横浜町 東北町 むつ市
大間町 風間浦村 佐井村 八戸市 三戸町 五戸町 階上町

【成果と課題】

放課後子ども教室は、青森市を含めると 25 市町村で 125 教室が開設され、地域の特性を生かしたスポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民との交流活動等が実施されている。放課後子ども総合プラン

にかかわる研修会には年間延べ1,400名を越える参加があり、指導員等の資質の向上に資する研修となっている。また、市町村からは、研修の継続を期待されている。

放課後子ども総合プランの推進に向け、引き続き健康福祉部と連携しながら、市町村において円滑な取組促進が図られるよう支援していく必要がある。

地域の豊かな社会資源を活用した土曜学習推進事業

【事業目的及び概要】

学校・家庭・地域が連携し、子どもたちにとってより有意義な土曜日の実現をめざすため、地域の多様な経験や技能を持つ人財等の協力により、土曜日に体系的・継続的な教育プログラムを企画・実施する取組を支援し、教育新体制等の構築を図る事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 地域の豊かな社会資源を活用した土曜学習推進事業費補助

土曜学習推進事業を実施する市町村（中核市の青森市を除く）に補助金を交付した。

○実施市町村：4市町村（土曜学習実施箇所数9か所）

中泊町 弘前市 七戸町 おいらせ町

【成果と課題】

土曜学習は、県内4市町9か所で実施されている。伝統芸能、様々なスポーツを体験させる活動、自然体験学習等、地域の多様な人財を活用した体系的な学習機会が展開されている。

今後は、取組事例を紹介する等、市町村の放課後子ども教室を含めた土曜日等の教育活動が充実するよう、普及啓発を図っていく必要がある。

家庭教育支援推進事業

【事業目的及び概要】

家庭教育はすべての教育の原点であり、家庭を取り巻く環境が変化している中、社会全体で家庭教育を支援することを目的として、「あおり家庭教育的アドバイザー」を養成し派遣するなど、今日的課題に対応した学習や取組を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) あおり家庭教育的アドバイザーの養成・派遣

「あおり親楽プログラム」を活用した学習を進行する家庭教育的アドバイザーを養成・派遣した。

○あおり家庭教育的アドバイザー養成講座

開催地	実施日	会場	参加者数	内容
青森	6/26(金) 6/29(月)	県総合 社会教育センター	40名	【講義】 「家庭教育の現状と家庭教育的アドバイザーの役割」 【演習】 「参加者の心に寄り添うためには」 講師 弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎
むつ	7/ 7(水) 7/14(水)	むつ合同庁舎旧館	18名	【演習】 「あおり親楽プログラムを体験してみよう」 「あおり親楽プログラムを作成してみよう」 生涯学習課 職員
合計参加者数 58名				

○あおり家庭教育的アドバイザー登録者数：23名

○家庭教育支援スキルアップ研修会

あおり家庭教育的アドバイザーや家庭教育支援に関わる人たちが、家庭教育の今日的な課題に対する認識を深め、情報を共有することにより、家庭教育支援者としての更なる資質向上とネットワークの構築を図ることを目的とする。

日時	会場	参加者数	内容
10/20(火)	総合社会教育センター	60名	【講義・演習】 「家庭教育支援における課題について」 講師 弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子 【青森県の家庭教育支援の状況・課題について】 生涯学習課 職員 【事例紹介】 「先輩アドバイザーから学ぶ」 事例紹介者 あおもり家庭教育アドバイザー 沼田 久美 上原 恵 【演習】 「あおもり親楽プログラムを体験してみよう」 あおもり家庭教育アドバイザー 上原 恵 、 沼田 久美 工藤 早苗 、 吉田 圭子

(2) 家庭教育支援普及定着研修会の開催

家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、市町村及び家庭教育支援者等のネットワークを広げる。

○家庭教育支援普及定着研修会

実施日	会場	参加者数	内容
2/15(月)	総合社会教育総合センター	91名	【基調講演】 「乳幼児期の育ち～愛着形成の重要性～」 講師 弘前大学大学院医学研究科附属子どものこころの発達研修センター 特任准教授 栗林 理人 【事例紹介】 「市町村教育委員会と家庭教育支援チームの連携について」 事例紹介者 横浜町教育委員会総括主査 小関 公晴 横浜町家庭教育支援チーム 西濱 いく子 七戸 景子 【グループ協議】 「今後の家庭教育支援の方向性について」 ～自分で取り組むことができる支援、他者と連携することで できる支援～ 生涯学習課 職員

○あおもり家庭教育アドバイザー派遣

派遣回数	実施日	実施機関	派遣人数	研修会名称	参加者数	学習プログラム
1	4/27(月)	青森市教育委員会	4	平成 27 年度家庭教育学級説明会	78	わたしの話、聞いている？ ～親子の会話～ 持たせる、持たせない？ ～ルールを考える～
2	5/16(土)	藤崎町 水木保育園	4	ふれあい親子会	65	笑顔のママでいたいのに！ ～子育てのイライラとつきあう

3	5/16(土)	藤崎町 福島保育園	1	あおもり親楽プログラム ①乳幼児・小学生編	35	笑顔のママでいたいのに！ ～子育てのイライラとつき あう
4	6/26(金)	鱒ヶ沢町立舞 戸小学校	2	舞戸小学校 PTA研修会	72	持たせる、持たせない？～ ルールを考える～
5	7/1(水)	東北町立甲地 小学校	3	家庭教育学級	58	わが子の自立を願うなら～ 自分のことは自分で～
6	7/1(水)	田子町立清水 頭小学校	2	清水頭集会	40	時間を有効に使う～生活リ ズムをコントロールする～
7	7/27(月)	東郡小・中 学校教頭会	2	東郡小・中学校教頭会	16	持たせる、持たせない？～ ルールを考える～
8	8/5(水)	五所川原市立 五所川原第三 中学校	2	PTA研修会主催「あお もり親楽プログラム」	14	思春期の子どもとどう関わ る？～親子のつながり～
9	9/4(金)	子育て支援し るくはあと①	3	おしゃべり広場	8	笑顔のママでいたいのに！ ～子育てのイライラとつき あう
10	9/18(金)	子育て支援し るくはあと②	3	おしゃべり広場	12	思春期の子どもとどう関わ る？～親子のつながり～
11	10/1(木)	東北町立東北 中学校	2	PTA講習会	12	時間を有効に使う～生活リ ズムをコントロールする～
12	10/27(火)	むつ市ファミ リ－・サポ ートセンター	1	むつ市ファミリー・サポ ートセンター 会員交流会	9	ダメだったらだめ！～子ども の自我の芽生え～
13	11/13(金)	外ヶ浜町教育 委員会	1	就学時健診を活用した子 育て講座	12	わが子の自立を願うなら～ 自分のことは自分で～
14	12/3(木)	東北町立蛭沢 小学校	2	蛭沢小学校PTA研修会	40	わが子も大きくなりました ～子育てを振り返る～
15	12/3(木)	平内町立山口 小学校	2	山口小学校全校参観日	50	おはよう、いい朝～家庭で のあいさつ～
16	12/7(月)	佐井村立牛滝 小中学校	1	家庭教育講座	7	時間を有効に使う～生活リ ズムをコントロールする
17	12/16(水)	三戸紫苑幼稚 園	1	家庭教育講座	9	ケンタ君のあくび～子ども の生活リズム～
18	12/22(火)	八戸市城北家 庭教育支援チ ーム	2	城北小家庭教育支援研修 会	32	親の親だからこそ②～祖父 母だからできること～
19	1/9(土)	平内町教育委 員会	2	ひらない子育て講座	4	子ども同士のトラブル、SOS ～ルールを教える～
20	1/21(木)	大間町連 合PTA	1	市町村個別課題検討会	26	わが子も大きくなりました ～子育てを振り返る～
21	1/28(木)	弘前市立文京 小学校①	2	第1回ぶんきょう親楽の つどい	6	笑顔のママでいたいのに！ ～子育てのイライラとつき あう
22	2/17(水)	弘前市立文京 小学校②	2	第2回ぶんきょう親楽の つどい	11	わたしの話、聞いている？～ 親子の会話～
23	2/23(火)	板柳町立小阿 弥小学校	4	参観日全体会	40	ケンタ君のあくび～子ども の生活リズム～
24	2/23(火)	コープあおも り五所川原地 域子育て委員 会	1	子育て委員会親楽研修会	6	笑顔のママでいたいのに！ ～子育てのイライラとつき あう

25	2/27(土)	青森市 PTA 連 合会	1	あおもり親楽プログラム を体験しよう	9	時間を有効に使う～生活リ ズムをコントロールする～
派遣回数：計 25 回 派遣人数：計 51 名 延参加者数：計 671 名						

[成果と課題]

今年度から、アドバイザー登録者のスキルアップをねらいとして、家庭教育支援スキルアップ研修会を行った。お互いが教え合い、先輩アドバイザーが助言することで、進行役としての共通の課題を共有することができた。普及定着研修会は、市町村教育委員会、学校、家庭教育支援団体などのそれぞれの立場でのグループ協議を行い、課題や方向性について共有することができ、ネットワークを広げる有意義な研修会となった。

アドバイザー派遣については、保育園や小・中学校などのPTA研修会の他、市町村教育委員会、企業、教員の研修会など様々な実施主体から多様な機会へのアドバイザー派遣依頼があり、アドバイザーが活躍する機会が多くあった。

子どもの年代の異なるPTAの研修会や、家庭を身近で支える祖父母対象の講座などへの派遣があり、家庭教育支援を考える場が多様であることが伺える。

今後は、多様な家庭教育支援に関するニーズに対応できるよう、研修会等の内容を工夫しながら、進めていきたい。

障害者家庭教育学級開設

[事業目的及び概要]

障害のある児童生徒の父母等保護者の家庭教育支援を目的として、特別支援学校に家庭教育を開設する事業である。

[事業内容及び結果]

開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容
青森第一養護学校	5	13	88	クッキング教室、陶芸教室、保護者施設見学会、東青地区合同研修会参加、口腔ケア研修会
青森第二養護学校	4	12	52	メディカルアロマ体験、耳つぼマッサージ教室、そば打ち体験、アーティシシャルフラワー教室
青森若葉養護学校	3	6	15	陶芸、音楽活動、コサージュ作り
青森第一高等養護学校	5	15	132	エコクラフト教室、運動会参加、福祉に関する勉強会、トールペイント教室、文化祭参加、在校生・卒業生・職員との交流
青森第二高等養護学校	4	11	95	花苗植え、環境整備、窯業作業体験、野菜ソムリエ講話・フルーツカッティング体験、二高養祭への参加
県立盲学校	5	14	78	運動会参加・片付け補助、通学路清掃活動・点字ブロック理解啓発活動、県盲祭バザー協力、進路講演会聴講
青森聾学校	6	12	168	運動会グラウンド整備、昼食交流、家族レクリエーション、青聾祭模擬店への協力、クリスマスツリー作り
浪岡養護学校	11	23	137	弘前地区合同研修会参加、特P連津軽地区研修会参加、パン作り(小学部)、ウッドクラフト制作(中学部)、うどん作り(高等部)など
弘前第一養護学校	4	15	292	運動会参加、弘前地区合同研修会担当、障害者就労施設見学、PTAバザー企画・運営・参加
弘前第二養護学校	6	18	197	運動会参加、弘前地区合同研修会参加、県特P連津軽地区合同研修会参加、学習発表会鑑賞

開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容
弘前聾学校	9	15	135	食育に関する講話、給食試食会、親子レクリエーション、弘前地区合同研修会・三校合同研修会の参加、手話講座、弘聾模擬店体験
八戸第一養護学校	4	11	82	学校給食試食会、施設体験・見学、特P連二北三八地区合同研修会参加、二北三八地区合同研修会参加
八戸第二養護学校	3	10	89	A E D心肺蘇生法講習会、手芸講習会、進路学習会（講演）
八戸盲学校	7	19	175	運動会装飾作り、料理教室、パソコン教室、二北三八地区合同研修会担当、環境美化、マッサージ・アロマ体験 など
八戸聾学校	6	16	78	運動会装飾作り、運動会参加、三校合同研修会の参加、自然体験活動、学校行事装飾・環境美化清掃
森田養護学校	3	11	54	和菓子作り講習会、「アウトプット展」見学を通しての交流、福祉サービス説明会
黒石養護学校	5	12	46	ケーキ作り、弘前地区合同研修会参加、職場・施設見学、コサージュ作り、黒養祭「お楽しみコーナー」の運営
七戸養護学校	4	14	55	進路講話、障害者福祉施設見学、調理活動（そば作り）
むつ養護学校	5	15	172	プランター整備・花苗移植、施設見学、親子レクリエーション、父母学習会、二北三八地区合同研修会参加
合計	延べ回数 99 回	延べ時間 262 時間	参加者数合計 2,140 名	

【成果と課題】

家庭教育学級を通じて、PTA活動を活発にしていくための一助として、魅力的な企画を提案し、同じ悩みを持つ保護者同士がコミュニケーションを図る機会を提供することができた。祖父母等の参加もあり、活動への関心の高さが伺える。また、高校生ボランティアなどの参加もあり、地域との交流を図ることができた。また、保護者の意見やニーズを反映できるような広報等の紙面づくり、活動報告の仕方等を工夫する取組が見られた。

課題としては、生徒の居住地が県全体であり交通事情などから、参加している保護者が固定化している等の現状があり、多くの保護者に参加してもらえるような工夫が必要である。

若者の社会参加促進事業

【事業目的及び概要】

ひきこもりやニート等の困難を抱える若者の社会参加を促進することを目的として、若者の社会参加について考えるセミナーを幅広く展開するとともに、社会教育施設を拠点に若者と地域とのつながりを形成する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 高校教員に対する中途退学者等の状況に関する調査

県立高等学校に在籍し、概ね5年以内に中途退学や不登校の生徒への指導経験がある教員に対し、中途退学や不登校に至る経緯やあればよいと思う学校以外から支援、現在の状況等について、調査し、結果を取りまとめた。

○調査票配布数 753 部

○回答件数 中途退学生徒に関する回答

374 件(男子 200 件、女子 174 件)

不登校から中途退学に至った生徒に関する回答

89 件(男子 47 件、女子 42 件)

不登校生徒に関する回答

109 件(男子 40 件、女子 69 件)

合

計

572 件(男子 287 件、女子 285 件)

(2) 若者の社会参加について考えるセミナー

青森県高等学校PTA連合会に委託し、「高校生の心の健康をどう支えていくか～いかにして子どもたちを育てるか～」というテーマで、高校生を子どもに持つ保護者を対象にセミナーを実施した。

○開催日：11/2(月)

○場 所：アップルパレス青森

○参加者：157名

○内 容：【発題】①「行政の立場から～高校教員に対する中途退学者等の状況に関する調査結果から～」県教育庁生涯学習課

②「親の立場から」 青森県高等学校PTA連合会健全育成委員 松浦 健悦

【講話】「今の子どもたちに大切なもの」

弘前大学大学院医学研究科附属子どものこころの発達研究センター

特任准教授 栗林 理人

【グループワーク】「いかにして子どもたちを育てるか」

(3) 若者の拠点づくり支援

公民館等の社会教育施設を会場に、若者(20～30代)を対象とした事業の企画を支援するとともに、企画に係る謝金と旅費を負担した。

【実施市町】

市町	月日	会場	内容	講師	参加者
平川市	12/10 (木)	平川市文化センター	「オーストラリアのお花で正月飾り！(おとな教室)」※フラワー教室をとおした若者のつながりづくり	阿保 友子 (花蔵屋経営者)	10名
十和田市	1/19 (火)	十和田市東公民館	「(仮)十和田湖の活性化を考える会」※思考法の質を上げること等についての講話	西谷 雷佐 (たびすけ合同会社西谷代表)	8名
中泊町	1/31 (日)	中泊町総合文化センター	「いいなかどまり会・活ハマクラブ研修会」※講師の実践を聴き、自分たちでできるまちおこしについての協議	岡 詩子 (つるた街プロジェクト代表)	14名
六戸町	2/27 (土)	六戸町文化センター	「アロマクラフトづくり(六戸町青年講座)」※占星学をツールとした若者のつながりづくり	沼内 美加子 (スクール&カフェ友美家副代表)	13名
南部町	2/27 (土)	南部町立南部公民館	「郷土料理を受け継ごう(かけ・つけ)」※南部町の伝統料理「かけ・つけ」をとおした食文化の体験と継承についての協議	新井山 成雄 (県ふるさと食品人材バンクアドバイザー)	14名
板柳町	3/6 (日)	板柳町多目的ホールあふる	「未来の板柳町が輝くために！」※講師の実践を聴き、自分たちでできるまちづくり・まちおこしについての協議	岡 詩子 (つるた街プロジェクト代表)	7名
五所川原市	3/6 (日)	五所川原市中央公民館	「子育てハッピーペアレンツ～カードコーチングで自分に気づく～」※カードを媒体に自己承認・他者承認・相互理解を体験	高橋 隆子 (キャッチャートプロジェクト代表)	8名
鱒ヶ沢町	3/7 (月)	鱒ヶ沢中学校第二体育館	「蒼海海鳴り太鼓」演奏講習会 ※27年9月に復活した「蒼海海鳴り太鼓」の演奏と振り付けをとおした若者のつながりづくり	工藤一幸、佐藤昭司、加藤隆之 (蒼海海鳴り太鼓保存会OB)	17名

【成果と課題】

高校教員に対する中途退学者等の状況に関する調査から、本県においては「社会性の育成」、「継続的

な相談体制」、「コミュニケーション能力の育成」が必要であるという結果等が得られた。社会へのつながりのきっかけを求めている若者を対象とした、自立支援に向けた「チャレンジキャンプ」の実施につなげていく。

若者の社会参加について考えるセミナーでは、各方面からの発題や専門的な講話、グループワークでの意見交換により、子どもの心の健康に関する各単位PTA相互の連携と保護者としての資質を高めることができた。

若者の拠点づくり支援については、実施市町では、まちおこし、子育て支援、郷土料理や郷土芸能等をテーマに、若者と地域、または若者同士のつながりを形成することができた。一方で、参加人数や実施市町村数等、つながりを形成する活動が十分に行われたとは言えなかった。周知方法や企画内容を検討していく必要がある。

総合社会教育センター

高大連携キャリアサポート推進事業

〔事業目的及び概要〕

高校生の「やる気」や意欲を引き出し、自らの夢に向かって主体的に行動できる人財を育成するため、所定の研修を修了した大学生によるワークショップを開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) ワークショップ「キャリアサポ」の実施

- ア 実施高等学校数 24校
- イ 参加高校生数 計 3,584名
- ウ 延べ参加大学生数 1,230名

No.	月日	実施校	対象高校生	参加大学生
1	6/13(土)	青森北高校	1学年(6クラス240名)	76名
2	6/20(土)	三沢高校	1学年(6クラス210名)	67名
3	6/27(土)	青森東高校	2学年(7クラス277名)	89名
4	7/ 4(土)	大湊高校川内校舎	1・2・3学年(3クラス110名)	52名
5	7/11(土)	黒石商業高校	1学年(4クラス137名)	53名
6	8/24(月)	八戸西高校	1学年(5クラス201名)	61名
7	8/26(水)	三本木高校	1学年(6クラス241名)	45名
8	8/28(金)	青森西高校	1学年(6クラス236名)	64名
9	8/29(土)	金木高校	1学年(2クラス45名)	32名
10	8/31(月)	大間高校	1学年(2クラス76名)	50名
11	9/ 1(火)	田名部高校	2学年(5クラス167名)	54名
12	9/ 3(木)	青森商業高校	1学年(6クラス238名)	64名
13	9/ 5(土)	浪岡高校	1学年(2クラス47名)	42名
14	9/ 7(月)	三沢商業高校	2学年(5クラス195名)	56名
15	9/ 9(水)	五所川原農林高校	2学年(5クラス170名)	53名
16	9/11(金)	弘前中央高校	1学年(6クラス240名)	60名
17	9/12(土)	田子高校	1・2学年(2クラス63名)	30名
18	11/ 7(土)	木造高校深浦校舎	1・2学年(2クラス49名)	27名
19	11/ 8(日)	中里高校	1・2学年(2クラス31名)	28名
20	11/14(土)	三戸高校	2学年(2クラス44名)	26名
21	11/21(土)	木造高校	1学年(4クラス157名)	64名
22	12/ 5(土)	七戸高校	1学年(4クラス160名)	51名
23	3/ 3(木)	青森中央高校	1学年(5クラス200名)	59名
24	3/ 4(金)	五戸高校	1学年(2クラス50名)	27名

(2) キャリア形成の支援

- ア 実施校担当者連絡会議(5/20)
- イ 大学生会議(5/10, 7/19, 12/13, 3/18)
- ウ 実施校担当者等研修会(2/19)
講演 「高大接続とアクティブ・ラーニング～グループワークからスキルアップを考える～」

エ 大学生対象研修会の開催

- 基本研修(計7回) 延べ受講者数 168名
- 応用研修(計3回) 受講者数 32名

[成果と課題]

高校生の意欲を引き出すワークショップ「キャリアサポ」を計画的、組織的かつ持続的に開催するための仕組みを構築することができた。

今後は、さらにキャリア形成の支援を推進するために、高校におけるワークショップをより効果的に進めるためのワークショッププログラムの充実や参加大学生の安定的確保に向けた広報の強化などに取り組む必要がある。

高校生スキルアッププログラム推進事業

[事業の目的及び概要]

高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し逞しく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的とし、学校外における学習への積極的な取組を推進する事業である。

[事業内容及び結果]

- (1) 高校生スキルアッププログラムの運営
- (2) 担当教員研修の実施

「キャリア教育研修会」の開催(高大連携キャリアサポート推進事業と共催)

- 開催日：2/19(金)
- 会場：県総合社会教育センター 第二教材開発室
- 対象：高校生スキルアッププログラム担当教員
- 参加者：23校23名
- 内容：講演「高大接続とアクティブ・ラーニング～グループワークからスキルアップを考える～」

青森大学社会学部 教授 船木 昭夫

- 意見交換会・スキルアップ認定証の活用状況について
- ・各種学習・活動の情報提供の在り方について

- (3) 評価サービス

平成27年度参加学校・参加生徒数・認定証交付者数 H28.2.29現在

地区	学校数	参加生徒数	認定証交付者数
東青	6校	480名	9名
西北	1校	10名	0名
中南	2校	6名	0名
上北	4校	165名	4名
下北	1校	564名	22名
三八	5校	749名	16名
合計	19校	1,974名	51名

[成果と課題]

昨年度と比較し、参加生徒数は減少しているものの、参加学校数が増え、認定証交付者数も大幅に増加した。認定証交付者数は前年度よりも更に増加し、自己のスキルを向上させたいと考えている高校生が多くなっていると推測される。今後、参加生徒数増加に向け、学校単位でより多くの高校に参加してもらえるよう働きかけていく必要がある。

未来の青森県を担う若人育成講座

[事業目的及び概要]

中学生・高校生が地域の課題を見つけ、自分の良さや思いを生かした活動に取り組む若人を育成することを目的として、自主性やリーダーの資質をさらに高める講座を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

- (1) 事業内容：対象地域 西北地域(つがる市・板柳町)
 - ア 第1講座 コミュニケーション能力を高める講座
 - 【7/4(土)～5(日) 県立梵珠少年自然の家】

(ア) 講義「私が取り組んできた地域活動」 講師 企業組合でる・そ〜れ 理事 辻 悦子
(イ) 講義「地域活動について～昨年度までの取り組み事例～」

(ウ) 講義「バルーンアートのできる地域活動」 講師 ふうせんや さとら 代表 北澤 由美子
(エ) 演習「人間関係づくりプログラムⅠ」 県総合社会教育センター職員
(オ) 演習「ふるさとを見つめ直す」 県総合社会教育センター職員

イ 第2講座 自分や仲間の良さを知る講座

【7/25(土) つがる市生涯学習交流センター「松の館」(つがる市)】

【7/26(日) 板柳町多目的ホールあふる(板柳町)】

(ア) 講義「地域や学校における真のリーダーとは」

講師 つがる市社会教育委員長 葛西 貢造

(イ) 演習「人間関係づくりプログラムⅡ」 県総合社会教育センター職員

(ウ) 演習「活動体験(第3講座)に向けて」 県総合社会教育センター職員

ウ 第3講座 地域で実践活動を体験し、仲間と実践する企画を考える講座

【8/11(火)～12(水) 県立梵珠少年自然の家】

(ア) 演習「人間関係づくりプログラムⅢ」 県総合社会教育センター職員

(イ) 体験活動「地域活動体験」

[企業組合でる・そ〜れ/特定非営利活動法人津軽半島観光アテンダント推進協議会/立佞武多の館/認定こども保育園 さかえ/農家民宿 須恵器の里 清久]

(ウ) 演習「活動報告」 県総合社会教育センター職員

(エ) 演習「私たちができる実践活動を考える」 県総合社会教育センター職員

(オ) 演習「実践活動を企画・運営するために必要なこと」 県総合社会教育センター職員

(カ) 講義「りんごの里板柳 まるかじりウォークについて」

講師 板柳町教育委員会生涯学習課 係長 工藤 保仁

エ 第4講座 地域実践活動を企画する講座

【8/22(土) つがる市生涯学習交流センター「松の館」(つがる市)】

【8/30(日) 板柳町多目的ホールあふる(板柳町)】

(ア) 講義「我がまちの良いところ～津軽富士見湖でのイベントをとおして～」

講師 つるた街プロジェクト 代表 岡 詩子

(イ) 演習「ふるさとで実践活動を行うためのポイント」

講師 つるた街プロジェクト 代表 岡 詩子

オ 第5講座 地域実践活動を準備する講座

【9/19(土) つがる市生涯学習交流センター「松の館」(つがる市)】

【9/20(日) 板柳町ふるさとセンター(板柳町)】

(ア) 演習「実践活動の準備」 講師 つるた街プロジェクト 代表 岡 詩子

(イ) 演習「実践活動のシミュレーション」 講師 つるた街プロジェクト 代表 岡 詩子

カ 第6講座 地域実践活動を実行する講座

【10/11(日) 板柳町ふるさとセンター】

企画実践「りんごの里板柳 まるかじりウォーク」

講師 企業組合でる・そ〜れ 理事 辻 悦子

つるた街プロジェクト 代表 岡 詩子

県総合社会教育センター職員

キ 第7講座 これまでの実践活動を振り返り、どのように活かすかを考える講座

【11/7(土) つがる市生涯学習交流センター「松の館」】

(ア) 演習「りんごの里板柳 まるかじりウォークの実践活動発表」

県総合社会教育センター職員

(イ) 演習「本講座で得たこと」 県総合社会教育センター職員

(ウ) 演習「若者の社会貢献を考える」 講師 企業組合でる・そ〜れ 理事 辻 悦子

つるた街プロジェクト 代表 岡 詩子

県総合社会教育センター職員

(2)受講者人数等

- ア 延べ受講者人数 106名(登録者：中学生2名 高等学校22名)
- イ 参加学校 4校(中学校1校 高等学校3校)
- ウ 地域実践活動参加者 約500名

[成果と課題]

西北地域の地元活動者を講師に迎え、地域の現状や課題について、受講生自らが当事者意識を持って考え、活動することができた。地域実践活動では、自分や仲間の良さ、強み、講座での学びを活かして協力し合い、主体的に企画を考え、準備、運営をした。

地域実践活動を中心に受講生を育成してきたが、今後は、市町村が継続した活動につながるような取組を検討していく必要がある。

学校と地域の協働実践セミナー

[事業目的及び概要]

学校と地域が一体となって子どもたちを育てるために、学校と地域の協働を実践する人材及び子どもたちの育成に関わる活動実践者を養成するための研修を行う事業である。

[事業内容及び結果]

- 対象 象：子どもと関わる地域活動実践者、学校支援コーディネーター、学校支援ボランティア、PTA活動者、教職員、地域住民等
- 受講者数：延べ157名

(1) 公開講演・情報交換会

<p>【開催日】7/29(水) 【参加人数】37名 【会場】県総合社会教育センター</p> <p>【内容】「地域と学校はパートナー」 ～これからの地域と学校のあり方～</p> <p>【講師】宮城教育大学教育復興支援センター副センター長 特任教授 野澤 令照</p> <p>【情報交換会】進行 県総合社会教育センター 職員</p>
--

(2) 地区研修会

開催地区	内 容
東 青	<p>【開催日】6/24(火) 【参加人数】22名 【会場】県総合社会教育センター</p> <p>【講義】「地域と密着した教育活動への取組」</p> <p>【演習】「学校支援やコーディネートに必要な力」 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット代表理事 八戸市立小中野小学校学校支援コーディネーター 平間 恵美</p>
西 北	<p>【開催日】7/15(水) 【参加人数】23名 【会場】板柳町多目的ホールあぷる</p> <p>【講義】「地域で支える子どもの育ち」</p> <p>【演習】「学校支援やコーディネートに必要な力」 五所川原市立栄小学校 前校長 学校支援ボランティア 近藤 徹</p>
中 南	<p>【開催日】9/10(木) 【参加人数】23名 【会場】黒石市産業会館</p> <p>【講義】「子どもと共にある地域づくり」</p> <p>【演習】「学校支援やコーディネートに必要な力」 弘前大学教育学部 講師 松本 大</p>
上北・下北	<p>【開催日】10/22(木) 【参加人数】26名 【会場】十和田市東公民館</p> <p>【講義】「地域で支える子どもの育ち」</p> <p>【演習】「学校支援やコーディネートに必要な力」 青森市立橋本小学校 前校長 スクールカウンセラー 長尾 慶子</p>
三 八	<p>【開催日】10/28(木) 【参加人数】26名 【会場】八戸市総合福祉会館</p> <p>【講義】「地域で支える子どもの育ち」</p> <p>【演習】「学校支援やコーディネートに必要な力」 青森市立橋本小学校 前校長 スクールカウンセラー 長尾 慶子</p>

[成果と課題]

地域の実態に応じた学校支援のあり方や、学校支援に必要な知識の習得等をめざした研修会を実施した。その結果、ほとんどの参加者から満足のいく研修だったという評価をいただいた。

今後は様々な子どもたちとどのように接すれば良いかという声が上がっていることを踏まえ、受講者の意識啓発やスキルの向上をめざした研修会を行う必要がある。

教員のための学校・家庭・地域連携講座

【事業目的及び概要】

地域の様々な教育力を活用しながら学校教育活動の充実を図るため、教員が学校・家庭・地域が連携する意義と効果を学習するとともに、地域と連携するために必要な企画力、コーディネート力等の資質向上を図る事業である。

【事業内容及び結果】

- 対象：小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員等
- 会場：県総合社会教育センター
- 受講者数：19名
- 事業内容

開催日	内 容
7/23(木)	<p>【講義】「生涯学習における学校教育と社会教育～学校・家庭・地域が連携する必要性～」 青森明の星短期大学 教授 石田 一成</p> <p>【事例発表】「我が校での地域・家庭との連携事例」 (発表) 弘前市朝陽小学校 教諭 工藤 直樹 八戸市立江陽中学校 教頭 鎌田 康由 青森県立青森西高等学校 教諭 工藤 譲司 (講評) 青森県教育庁生涯学習課 学校地域連携推進監</p>
7/24(金)	<p>【情報提供 1】「公共施設と学校との連携事例」 (発表) 青森県立郷土館 青森県立美術館美術企画課 青森県立図書館(近代文学館) 青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室 青森県立梵珠少年自然の家</p> <p>【情報提供 2】「NPO等における学校支援の実際」 特定非営利活動法人企業教育研究会 事務局長 市野 敬介</p> <p>【演習】「地域の教育力活用と教員の関わりの課題」 県総合社会教育センター職員</p>

【成果と課題】

学校・家庭・地域の連携の必要性を高めるため、公共施設やNPO等の連携事例を基に事業を組み立て、講座を実施した。受講者からの満足度は非常に高く好評であった。特に県外NPOの先進的取組事例は学校で取り入れたいとの意見もあった。今後は学校教育と社会教育の連携を高めるため、企画力、コーディネート力等の資質向上に向けた研修講座を実施する必要がある。

絆でつながる家庭教育支援セミナー

【事業目的及び概要】

家庭教育支援に関わる人々の輪を広げるため、地域の絆の中での家庭教育支援につながる講座の企画・運営等の実践を通して、地域に密着した家庭教育支援者を育成する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 各市町村で開催する講座

地域で家庭教育支援を行う上で知っておいた方が望ましい基礎知識等を学びながら、講座の企画・運営のノウハウを習得する。

○場 所：県内4市町村(2地区2市町村)

・西北地区一板柳町、中泊町 ・中南地区一黒石市、田舎館村

○参加者：受講者数 47名 実践活動参加者数 272名

○事業内容

ア 家庭教育支援基礎講座

- イ プログラムづくり講座（事例発表から学ぶ）
- ウ プログラムづくり講座（組み立て）
- エ プログラムづくり講座（組み立て）
- オ プログラム実践
- カ スキルアップ講座（実践の振り返り等）

回	開催日		内 容
	西北地区		
	板柳町会場	中泊町会場	
1	5/22(金)	5/26(火)	講義「家庭教育支援基礎講座」～地域ぐるみの子育て・子育て支援について考える～ 講師 弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎 演習「地域の子育ての現状について考える」 県総合社会教育センター職員
2	6/3(水)	6/10(水)	事例発表「地域の絆を深める家庭教育支援活動」 発表者 子育てサークル mama sun Angels 代表 工藤 美穂 演習「絆づくりプロジェクト」～地域ご受け入れられるプログラムづくり企画編～ 県総合社会教育センター職員
3	6/17(水)	6/24(水)	演習「絆づくりプロジェクト」～地域ご受け入れられるプログラムづくり組み立て編～ 県総合社会教育センター職員
4	7/8(水)	7/22(水)	演習「絆づくりプロジェクト」～地域ご受け入れられるプログラムづくり組み立て編～ 県総合社会教育センター職員
5	7/11(土)		活動実践 ようこそ本の世界へ ～扉を開けてページをめくろう～ 講師 青森県立青森南高等学校 教諭 八木橋 奈央 板柳町おはなし広場 代表 赤石 彩子
		7/25(土)	活動実践 ミケル イカリン ミケル Jr. とダンシング♪ 中泊クイズもあるよ 講師 りんごの里スポーツクラブ クラブマネージャー 高杉 牧子
6	7/30(木)	8/5(水)	演習「プログラム実践を終えて」～感想をシェアし活動の振り返りをする～ 県総合社会教育センター職員 講義「地域が求める家庭教育支援の実際」～地域の絆の中で活躍する支援者～ 講師 NPO 法人子どもネットワーク・すてっぷ 副代表理事 野呂 美奈子

回	開催日		内 容
	中南地区		
	黒石市会場	田舎館村会場	
1	8/26(水)	9/2日(水)	講義「家庭教育支援基礎講座」～地元発！我ら子育て応援団～ 講師 青森中央学院大学 看護学部 准教授 高橋 佳子 演習「地域の子育ての現状について考える」 県総合社会教育センター職員
2	9/9(水)	9/17(木)	事例発表「地域の絆を深める家庭教育支援活動」 発表者 大鰐町赤ちゃん子育てサークル わこっこクラブ 代表 阿保 香月 演習「絆づくりプロジェクト」～地域ご受け入れられるプログラムづくり企画編～ 県総合社会教育センター職員
3	9/25(金)	9/30(水)	演習「絆づくりプロジェクト」～地域ご受け入れられるプログラムづくり組み立て編～ 講師 県総合社会教育センター職員
4	10/14(水)	10/28(水)	演習「絆づくりプロジェクト」～地域ご受け入れられるプログラムづくり組み立て編～ 県総合社会教育センター職員
5	10/18(日)		活動実践 スポーツでつながろう家族でGO! 講師 黒石市消防署、黒石市体育指導員
		10/31(土)	活動実践 ～親子で“足かた”作るべし～ 講師 田舎館村埋蔵文化財センター田舎館村博物館職員

27年度事業の実績

6	11/5(木)	11/11(水)	演習「プログラム実践を終えて」～感想をシェアし活動の振り返りをする～ 県総合社会教育センター職員 講義「地域が求める家庭教育支援の実際」～地域の絆の中で活躍する支援者～ 講師 NPO法人弘前子どもコミュニティ・びーぶる 代表理事 清野 真由美
---	---------	----------	--

(2) 共通スキルアップ講座(4市町村合同)

関係市町村において家庭教育支援活動をさらに発展させるため、1年間の総まとめ研修会を開催する。

○開催日：11/17(火)

○会場：県総合社会教育センター

○参加者：116名

○事業内容

ア 公開講演

「今、求められている家庭教育支援とは～地元だからこそできる支援～」

講師：白梅学園大学学長 東京大学名誉教授 汐見 稔幸

イ 情報交換会及び交流会

「みんなで子育て親育ちを考えよう～自分たちの活動を地元で充実、発展させるために～」

県総合社会教育センター職員

【成果と課題】

受講生は、家庭教育支援講座やスキルアップ講座を通して、家庭教育支援の基礎や地域での運営方法等について、今後の活動につながる一貫した内容で学ぶことができた。また、地域特性を生かした学習プログラムを企画・立案し、実践することで、より深く地域の現状と課題を知るきっかけとなった。受講生に一定のノウハウが蓄積されたことで、セミナー終了後も受講生自らプログラム実践を実施しようとする気運が高まっている。今後も、家庭教育支援者の育成に努め、支援者が各地域で活躍しやすい環境を整えるための学習機会や活動場所の設置等、支援に関わる人たちの輪を広げていく必要がある。

家庭教育支援コンテンツ制作事業

【事業目的及び概要】

家庭教育の重要性を訴えるとともに、子育てに関わる人々の抱える不安や悩みを軽減することを目的とした学習教材(動画)を制作し、学習機会と情報の提供を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 家庭教育支援コンテンツ制作企画委員会委員名簿

No.	氏名	所属等	備考
1	茂木 典子	八戸学院短期大学 学長補佐	委員長
2	深作 拓郎	弘前大学生涯学習教育研究センター 講師	副委員長
3	三上 和一	横浜町立南部小学校 校長	
4	工藤 貴子	弘前市立文京小学校 PTA会長	
5	沼田 久美	特定非営利活動法人 子育て応援隊ココネットあおもり 代表	
6	笠井 麻喜	青森県総合学校教育センター 指導主事	

(2) 家庭教育支援コンテンツ企画委員会の開催

ア 第1回企画委員会 5/12(火)

イ 第2回企画委員会 6/22(月)

ウ 第3回企画委員会 9/14(月)

エ 第4回企画委員会 2/4(木)

(3) 学習教材(動画)の制作

ア 一般家庭向け作品(各5分)

(ア) 心を育むお手伝い ～世代間交流・シニア世代～(ドキュメンタリー)

(イ) 子育てに関わること ～世代間交流・若者世代～(ドキュメンタリー)

- (ウ) 唯ちゃんのカチューシャ ～聴覚障がい児の子育て～(ドキュメンタリー)
- (エ) 愛着形成 ～愛情の大切さ・幼児期の子育て～(ドキュメンタリー)
- (オ) DV(児童虐待) ～わたしは母親失格?～(ドラマ)
- (カ) 我が子が不登校になった(ドラマ)
- (キ) 過保護・過干渉 ～母親の葛藤～(ドラマ)
- (ク) 育児不安を回避するために(How to)
- (ケ) 怒ることと、叱ることの違い(How to)
- (コ) うちの子は発達障がい?(How to)

イ 家庭教育支援者向け作品(各 15 分)

- (ア) 青森県の家庭教育支援者育成への取組
- (イ) 家庭教育支援に関わる人達へ

(4) 家庭教育支援コンテンツの活用

- ア 制作したコンテンツをホームページで配信
- イ 各関係機関へDVD教材として配布
- ウ 家庭教育支援団体、保育園、小学校での家庭教育学習会等での活用

【成果と課題】

コンテンツ作品の分野を、「一般家庭向け作品」「家庭教育支援者向け作品」と対象を今まで以上に明確にした。また、作品内容も「ドラマ」「How to」と昨年度までなかったジャンルの作品を制作し、動画配信を行い、DVD教材として各関係機関に配布することで、家庭教育の重要性を伝えることができた。今後、「どのようにして視聴してもらえるのか」「どのようにして活用できるのか」が課題として挙げられるので、課題解決に向けて様々な手段を講じる必要がある。

家庭教育相談事業

【事業目的及び概要】

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、就学前児童から高校生の保護者や家族を対象に、電話・メール等により寄り添い型の家庭教育相談を行う事業である。

【事業内容及び結果】

- 対象 就学前児童から高校生までの子育て・孫育て中の親と家族
- 実施方法 電話相談・週 2 回 火・木曜日(祝日・年末年始を除く)13:00～16:00
メール相談・24 時間受付
- 場所 県総合社会教育センター電話相談室
- 対応内容 発育・発達、しつけ、対人関係など、子どもに関する悩みや家庭教育全般
- 相談体制 家庭教育支援員及び県総合社会教育センター家庭教育担当職員が対応
- 相談件数：27 件（電話相談 22 件、メール相談 4 件、面接相談 1 件）

【成果と課題】

相談内容は、問題行動、養育・しつけ、対人関係に関するものなど、多岐にわたるものであったが、他の相談機関と連携しながら、相談者の悩みや不安を取り除くことに寄与することができた。また、県子ども家庭支援センター(アピオあおもり)との連絡会議を年 2 回開催して連携を深めることができた。全体的な相談件数が減ってきていることから、チラシやポスター配布の他、様々な研修会等ですこやかほっとラインについての周知を図っていく必要がある。

県立図書館

子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

【事業目的及び概要】

子どもの読書活動の環境づくりを進めることを目的として、市町村立図書館等に対して幼児、児童・生徒用図書セットを貸出する事業である。

【事業内容及び結果】

図書セットの内容	利用対象	前期		後期	
		配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
1 小学校	低学年	53	3,480	46	3,200

27 年度事業の実績

	中学年	54	3,540	47	3,300
	高学年	54	3,560	47	3,260
2 中学校	中学校	10	640	10	640
3 読み聞かせ絵本 児童書等	保育所等	48	4,950	56	6,000
4 大型絵本	読み聞かせ活動者	47	635	50	695
5 テーマ別 図書セット	小・中学校 特別支援学校	10	468	18	822

[成果と課題]

市町村立図書館による学校図書館等との連携を支援することができている。
毎年度、新しい本を利用してもらえるように、図書セット内容更新を課題としている。

高校生の読書活動推進のための図書セット貸出事業

[事業目的及び概要]

高校生（特別支援学校高等部を含む。）の読書活動推進を目的として、高等学校図書館等に対してキャリア教育の充実、教育活動を支援する図書セットを貸出する事業である。

[事業内容及び結果]

前期		後期	
配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
4	400	3	300

[成果と課題]

高等学校図書館への支援を行うことができている。
配本先拡充が課題である。

梵珠少年自然の家

梵珠少年自然の家主催事業（親子のつどい、子どものつどい）

[事業目的及び概要]

参加者相互のふれあいを深めながら、自然について学ぶとともに、自然に親しむ態度や豊かな心を育てることを目的として、自然の中で多様な体験活動を行う事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 親子のつどい

活動名	期日	対象	参加者数	内容
①春・いーっぱい	5/10(日)	小・中学校の児童生徒とその保護者	42名	ネイチャーゲーム、創作活動
②虫の世界をのぞいてみよう	8/22(土)～23(日)		33名	昆虫の採集と観察
③秋・みーつけた	9/27(日)		22名	ネイチャーゲーム、創作活動
④わくわく自然体験デー	11/1(日)		198名	野外活動、創作活動、野外料理、遊びのコーナー
⑤門松をつくろう	12/19(土)・20(日)		239名	本格門松づくり
⑥冬にとびだそう	2/6(土)～7(日)		44名	スノーシューハイキング、雪灯籠づくり、キャンドルナイト、チューブそり遊び、親子クッキング

(2) 子どものつどい

活動名	期日	対象	参加者数	内容
①アウトドアライフ 2015in サマー	8/5(水)～ 8(土)	小学校 5 年生から 中学校 3 年生まで の児童生 徒	52名	野外ゲーム、野外炊事、テント泊、 登山、カヌー、キャンプファイヤ ー、メモリアルクラフト
②アウトドアライフ 2016in ウィンター	①1/16(土)～ 17(日)		26名	雪灯籠&スノーハウスづくり、スノ ーチューブ体験、野外炊事、思い出 クラフト
	②2/27(土)～ 28(日)		29名	雪上トレッキング、スノーチューブ 体験、冷スイーツづくり、思い出ク ラフト

【成果と課題】

「親子のつどい」では各分野に造詣の深い講師の指導によるネイチャーゲームなどの自然体験活動や、参加者同士のふれあいを深める活動、親子が協力して取り組む活動など、多様な体験活動を実施した。いずれの事業においても参加者の満足度は高く、今年度も充実した体験活動を実施できたと考えている。中でも、「門松を作ろう」は人気が高く、昨年度から募集定員 160 名を 200 名に増やして実施しているが、希望に応じきれない状況が続いており、より多くの参加希望に対応できるよう、工夫が必要である。

「子どものつどい」では、夏は昨年度、移動キャンプ先での悪天候への対応に追われたことから、天候の変化に柔軟に対応し得る自然の家での固定キャンプとした。それに伴い、岩木山登山を梵珠山から自然の家までの縦走登山に変更した。又、例年「カヌー」と「いかだ」を組み合わせて実施してきたが、今年度は完成間近の「津軽ダム」見学と「カヌー」を組み合わせて実施した。冬は、学校の冬季休業中に 2 泊 3 日で実施してきたが、募集定員に満たない状況が続いていることから、開催時期と内容を見直し、今年度は 1 泊 2 日で 2 回、内容を変えて実施した結果、昨年度より多くの児童に参加してもらうことができた。どちらの事業においても、自然の豊かさと厳しさを実感する中で、仲間と協力して取り組み、達成したことによる成就感や周囲への感謝の気持ち、更には、自らの成長を実感している様子が窺われる感想が多く寄せられており、事業の目的は達成できたと考えている。今後とも充実した自然体験の場を提供できるよう努めていきたい。

自然体験活動支援事業

【事業目的及び概要】

自然体験活動の促進を図ることを目的として、身近な自然環境を活用して子どもたちが効果的に体験活動ができるよう、少年自然の家の職員が指導、助言などの支援を行う。また、指導者としての基礎的な技能の習得を目的とし、青少年向けの自然体験活動を効果的に行うための基礎的知識や野外活動プログラムの実技体験等に関する研修会を開催する事業である。

【事業内容及び結果】

活動名	期日	対象	参加者数	内容
①レッツエンジョ イ！自然大好きっず	4～5月、 10～3月	小学校、 中学校、 特別支援 学校、P TA、青 少年団体 等	40 団体 2,147 名	スノーシュー体験、雪上運動会、雪 灯籠づくり、イグルーづくり、棒パ ンづくり、焼いもづくり、アイスク リームづくり、梵珠ブーメラン、チ ャカポコけん玉、フォトフレーム、 バードコール、森からのプレゼント など
②自然体験活動研修 会	5/30(土) ～31(日)	青少年教 育、自然 体験活動 に興味の ある方	10 名	講義：自然体験活動の意義と必要 性、自然体験活動の企画・運営の基 礎知識 実習：ローカル・スペシャリティ・ オリエンテーリング、落ち葉のゆく え、ダッチオープン料理、テント泊 体験、フォトフレーム、グリーンク ラフト、野草のてんぷらうどん

27 年度事業の実績

[成果と課題]

職員が直接出向いて支援する「レッツエンジョイ！自然大好きっず」では、利用団体数は昨年度より12団体増加した。今年度も各団体のニーズに応じ、ディスクゴルフやスノーシュー体験などの野外活動、フォトフレームや森からのプレゼントなどの自然物を使った創作活動、雪上運動会やアイスクリームづくりなどの雪を使った活動など、多様な自然体験活動の場を提供することができた。

「自然体験活動研修会」は内容に対する満足度が高い一方で、昨年度より参加者数が減少した。ここ数年、募集定員に満たない状況が続いており、対象及び実施時期、開催方法等全般にわたって見直しが必要である。

在学少年宿泊指導者研修

[事業目的及び概要]

少年自然の家での宿泊学習や自然教室等を利用団体が効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容や、施設・設備の利用の仕方等について学ぶとともに、利用する際の日課表を作成する事業である。

[事業内容及び結果]

期日	対象	参加者数	内容
4/20(月)～21(火)	平成27年度利用予定団体及び今後利用を考えている団体の引率者	107名	講義：宿泊体験学習における効果的な自然の家の利用 実技体験：創作・野外・室内の各活動プログラム 説明：施設利用に当たっての留意点他 演習・実践：日課表の作成

[成果と課題]

昨年度同様、講義の中で安全管理に多く時間を配分するとともに、創作及び野外の実技体験の時間を最大限確保して実施した。また、あらかじめ日課表を作成して参加することが定着し、演習・実践における話し合いも円滑に進めることができた。利用団体へのアンケートによれば、この事業に参加したすべての団体が自然の家の利用は活動目的の達成に有効であったと回答しており、利用した青少年の自然や仲間に対する意識の向上に寄与することができたと考えている。

ファミリー防災キャンプ事業

[事業目的及び概要]

災害に備える態度及び実践的な対応能力を育成することを目的として、さまざまな災害の状況を想定した活動を親子で体験する事業である。

[事業内容及び結果]

期日	対象	参加者数	内容
11/14(土)～15(日)	小・中学校の児童生徒とその保護者	36名	事例紹介：身近な防災について 実習：焚火で調理、親子で防災すごろく 講義・実習：災害時の栄養と食事、災害と避難所 演習：家族で防災ワークショップ

[成果と課題]

自宅に留まることはできるが、ライフラインが断絶した場合や、避難所への退避が必要な場合など、様々な災害の状況において、すぐにでも活用できる情報を提供するため、たとえば、雑誌のみで焚火をしてお湯を沸かしたり、毛布のみでの負傷者搬送を体験してみるなど、できるだけ家庭にあるものを用いるようにした。さらに、ワークショップにおいて子どもと一緒に備える持ち出し品リストを親子で考えるなど多様な体験の場を提供したことにより、参加者が災害に対する備えを日頃から考え、実践する契機とすることができた。

しかし、昨年度より参加者を増やすことができたが、募集定員には満たなかったことから、周知の時期や方法についてさらに検討する必要がある。

種差少年自然の家

種差少年自然の家主催事業（自然と遊ぼう、子どもの祭典）

〔事業目的及び概要〕

小・中学生が家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましい子どもに育てることを目的として、自然体験活動や野外でのキャンプ活動、創作活動など様々な活動を体験する機会を提供する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 自然と遊ぼう

活動名	開催日	対象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「春のハイキング」	5/17(日)	小・中 学生と その保 護者	120名	春の自然を楽しもう (種差海岸ハイキング等)
たねさしワールド 「エンジョイ！海遊び」 ① ② ※2回開催	7/4(土)		116名	海で思いっきり遊ぼう (いかだ、カヌー、サンドクラフト、 磯遊び等)
	7/5(日)		140名	
たねさしワールド 「秋を感じて」	10/18(日)		114名	秋の自然を楽しもう 自然に親しむゲーム、創作活動等
たねさしワールド 「つくって新発見」	12/6(日)		116名	つくって楽しもう クリスマスリースづくり等
たねさしワールド 「エンジョイ！雪遊び」 ① ② ※2回開催	1/30(土)	4歳以 上の幼 保・小・ 中学生 とその 保護者	95名	雪で思いっきり遊ぼう (スノーチューブすべり、そり遊び、 スノークラフト、せんべい焼)
	1/31(日)		117名	
たねさしワールド 「こども大作戦」①② ※2回開催	2/13(土) ～14(日)	小3年 ～4年	50名	子どもだけで泊まって楽しもう (仲良しタイム、館内ツリーイング 夜の森探検等)
	2/27(土) ～28(日)	小1年 ～2年	42名	

(2) 子どもの祭典

活動名	開催日	対象	参加者数	内 容
おいでよ！ サマーキャンプ	7/28(火) ～31(金)	小5 ～中3	40名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・ドラム缶風呂体験 ・海での活動 等
わくわくどきどき ウィンターキャンプ	12/24(木) ～26(土)	小5 ～中3	21名	・仲間づくりゲーム ・冬の野外炊事 ・冬の森探検

〔成果と課題〕

自然と遊ぼうでは、四季折々の自然の中で自然体験活動を楽しみながら、親子のふれあいを深めたり参加者同士が協力したりする様子が随所に見られた。アンケート結果から参加者の満足度も極めて高い評価を得ることができ、心豊かでたくましい子どもの育成に貢献できたと感じている。

子どもの祭典のサマーキャンプは海水浴やドラム缶風呂等の体験を仲間と交流しながら楽しんだ。ウィンターキャンプは、ダッチオーブンを使った野外炊事、森探検など冬の大自然の中で友達と協力しながら野外活動を楽しんだ。自然の豊かさと厳しさを実感する中で、仲間と協力し達成した喜びや周囲へ

の感謝の気持ちを表す行動が随所にかがわれるなど、心豊かでたくましい子どもを育むという目的を達成することができたと感じる。

事業内容が認知され、リピーターの参加者も多く定員を超えている状況である。活動の安全を確保しながら多くの参加者を受け入れていきたい。また、プログラム内容や持ち方を工夫しながらリピーターにとっても楽しめるよう事業を充実させていきたい。

自然体験活動支援事業

〔事業目的及び概要〕

学校や身近な野外活動場所で子どもたちに自然体験活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に出向いて自然体験活動の実地支援を行う。また、自然体験活動の指導者の資質向上を図ることを目的として、小中学校及び関係機関等の指導職員を対象に研修を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

活動名	開催日	対象	参加者数	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5月 及び 10月～3月	三八、上北管内の 小・中学校、児童 館、公民館、青少年 団体や成人団体等 ※15名以上の団体	74団体 延べ 9,970人	・種差少年自然の家のプログラムの中で 出前対応可能なもの (せんべい焼き、どんぐりアート、動物マ グネット、フライパンピザ等)
自然体験活動 研修会	6/6(土) ～7(日)	幼・小・中学校教 員、高校・大学生、 その他自然体験活 動の指導者等	32名	・アドベンチャーゲームや野外活動 ・野外炊事や創作活動等のプログラム実 習 ・ブローカート体験 ・磯遊び、いかだ活動及び緊急対応訓練

〔成果と課題〕

自然体験活動出前講座が広く認知され、イベントへの参加依頼が増えるなど利用団体数が増加している。公民館、仲よしクラブ等の多くの方々にご利用していただくことで自然体験活動の場を提供でき、目的を達成することができた。

自然体験活動研修会は、他のスポーツ施設と連携した新企画（ブローカート体験）で野外活動の楽しさを十分体感するとともに新しい技術を身につけることができたことで、資質向上が図られた。また、いかだ活動におけるえい航訓練、転落者の救助訓練を実施し、緊急時の引率者の対応、施設職員との連携のあり方について実践的に学ぶことができた。

募集定員を満たしていない状況であるが、参加者の満足度は高く概ね目的を達成できたと感じている。

在学少年宿泊指導者研修

〔事業目的及び概要〕

種差少年自然の家を利用する小・中学校の引率教員を対象に、自然体験・生活体験を通して児童・生徒の「生きる力」をはぐくむために必要な知識・技能の習得を目的として研修する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- 開催日：4/20(月)～21(火)
- 対象：平成27年度利用小・中学校及び特別支援学校の引率教員
- 参加人数：75名
- 内容：講義 社会教育施設としての少年自然の家・利用の仕方
実習 活動プログラムの実習（野外、自然、創作活動、夜の活動）、施設等の利用方法
演習 活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認

〔成果と課題〕

限られた時間の中で参加者は講義や説明・自然災害等による緊急時の安全対策の確認・プログラム実習・打合せ等に意欲的に取り組んでいた。結果、宿泊学習が集中する6月から9月の天候急変によるプログラム変更対応等を確認したことで、大きな混乱や事故等がなく活動を進めることができた。

今年度は、講義で利用方法を簡潔にし、指導のポイントに重点をおき説明をしたところ「宿泊学習で活動をスムーズに進めることができ活動が充実した。」という利用者アンケートの回答を得るとともに、大きな混乱や事故等がなかった。このことから本研修が生かされたと感じており、目的は概ね達成する

ことができたと考えている。

親子で学ぶ防災キャンプ事業

[事業目的及び概要]

避けることのできない自然災害に遭遇したとき、災害時における実践的な対応能力を育むことを目的として、小・中学生の家族を対象に行う研修事業である。

[事業内容]

活動名	開催日	対象	参加者数	内 容
親子で学ぶ 防災キャンプ	9/12(土) ～13(日)	小・中学生とその 保護者	9組 20名	・高齢者の避難及び日常生活等の疑似体験 ・地震疑似体験 ・プレーホールでの避難所体験泊 ・停電時の炊事 等

[成果と課題]

家族ごとに高齢者疑似体験セットを装着し、階段の上り下りや床での寝起きなど日常生活体験、給水車から給水袋を使つての給水体験、起震車を使った地震疑似体験やカセットコンロを使つての炊事体験等を行った。参加者が具体的な体験活動を通して、災害時に役立つ知識や心構えを学ぶような内容に変更した。

参加者からは「自他の命を守るための知識、技術を学ぶことができた。」「人との関わりや協力、節水の大切さ等を体験を通して学ぶことができた。」「前向きな気持ちをもつことの大切さを学ぶことができた。」という感想があり、目的は概ね達成することができたと考えている。

現代社会に求められる能力ではあるが参加者が少なかった。募集期間、広報活動、内容等の改善を図り、参加者が増えるよう工夫が必要である。

(2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者の育成
- イ 地域活動の指導者、コーディネーターの養成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

生涯学習課

市町村の社会教育活性化支援事業

〔事業目的及び概要〕

市町村等の社会教育主事等の力量形成とその専門性を生かした社会教育の活性化を目的とした、生涯学習課と教育事務所が連携し、地域課題の検討会や研修会を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 市町村個別課題検討会

教育事務所等の職員が各市町村に出向き、市町村それぞれの課題に応じ、課題解決に向けた方策や手法を検討した。12市町村で開催し、必要に応じ県内の有識者を派遣した。

地区名	市町村名	課題(開催回数)等
東青地区	平内町	ハクチョウのまち再生事業の推進(全3回)
	今別町	第5次今別町中期社会教育計画の策定(全3回)
西北地区	五所川原市	五所川原市子ども読書活動推進計画の策定(全3回)
	鱒ヶ沢町	子どもたちの体験活動を充実させるための新たな青少年育成事業(全3回)
中南地区	黒石市	子ども会活動をどのように活性化するか(全3回)
	平川市	地域の若者の社会参加意識をいかにして高めるか(全3回)
上北地区	三沢市	生涯学習のまちづくり推進計画の策定(全3回)
	おいらせ町	社会教育を推進させるワークショップの充実について(全7回)
下北地区	大間町	地域社会全体で取り組む家庭教育支援の充実について(全3回)
	風間浦村	地域住民に必要とされる生涯学習の拡充について(全4回)
三八地区	階上町	子ども読書推進計画改定・地域コミュニティ活性化に向けた実践者の育成 公民館機能の活性化(全3回)
	新郷村	地域コミュニティ活性化に向けた実践者の育成・シニア世代が活躍できる 仕組みづくり(全3回)

(2) 地域人財ネットワーク形成会議

市町村域を超えた共通の地域課題の解決に向けて、地域づくり人財の「顔の見えるネットワーク」を形成する会議を県内6地区で開催した。

地区名	開催日時	開催場所	参加者数
東青	12/10(木)	県総合社会教育センター	参加人数：25名
西北	1/13(水)	五所川原合同庁舎	参加人数：24名
中南	1/20(水)	平川市生涯学習センター	参加人数：58名
上北	1/27(水)	七戸中央公民館	参加人数：34名
下北	12/15(火)	むつ合同庁舎	参加人数：29名
三八	1/12(火)	八戸合同庁舎	参加人数：22名

(3) 市町村社会教育主事等専門研修

市町村の社会教育主事に及び社会教育関係職員に必要な資質・能力の向上を図る実践的な研修を開催した。

①中央研修

第1回 5/11(月) 13:00~16:50 総合社会教育センター 参加者数:30名

講義「伝わる・使える! レポート作成のコツ」

演習「伝わる・使える! レポート作成のコツ [実践編]」

講師: NPO法人ふくおかNPOセンター

代表 古賀 桃子

第4回 2/23(火) 9:50~12:00 総合社会教育センター 参加者数:48名

講義「今、社会教育行政に必要なこと~食によるまちづくりをとおして~」

講師: 深浦町観光課

観光振興係長 鈴木 治朗(鈴木マグロー)

意見交換 進行: 県教育庁生涯学習課

学校地域連携推進監

②地区研修(各地区第2回~第3回として開催)

〈東青地区〉

第2回 10/13(火) 13:10~15:50 県立図書館 参加者数:17名

講演「地元資源を活かした地域活性化と課題解決」

講師: 青森大学

教授 柏谷 至

研究協議・グループ演習 「地元の『資源』を見つけよう!」

第3回 11/19(木) 13:10~15:50 総合社会教育センター 参加者数:12名

講演「地元資源を活かした地域活性化と課題解決~アイデアを形にする方法~」

講師: 青森大学

教授 柏谷 至

研究協議・グループ演習 「地元の『資源』を活かそう!」

〈西北地区〉

第2回 5/15(金) 11:00~14:30 五所川原市中央公民館 参加者数:11名

グループ協議 実践レポートについての情報交換、成果や改善点などに関する協議

講演「青空・そよ風・とび出す元気!」

講師: NPO法人子どもネットワークすてっぷ

代表理事 奈良 陽子

第3回 1/13(水) 10:30~14:10 五所川原合同庁舎 参加者数:13名

グループ協議 実践レポートについての情報交換、成果や改善点などに関する協議

講演「社会教育活性化に向けたネットワークの推進について」

講師: 県教育庁生涯学習課

学校地域連携推進監

〈中南地区〉

第2回 7/3(金) 14:00~16:30 県武道館 参加者数:15名

実践レポート発表及び協議(平川市教育委員会、藤崎町教育委員会)

助言: 弘前大学

講師 松本 大

講演「社会教育主事の専門性を高めるために」

講師: 弘前大学

講師 松本 大

第3回 11/12(火) 14:00~16:30 県武道館 参加者数:15名

実践レポート発表及び協議(弘前市教育委員会、西目屋村教育委員会)

助言: 弘前大学教育学部講師 松本 大

講演「地域課題に向き合う社会教育事業のあり方」

講師: 弘前大学教育学部

講師 松本 大

〈上北地区〉

第2回 7/13(月) 13:00~16:00 上北教育事務所 参加者数:12名

講義及び演習「市町村社会教育主事の実践について」

講師: 弘前学院大学

講師 生島 美和

第3回 11/16(月) 13:00~16:00 上北教育事務所 参加者数:15名

講義及び演習「市町村社会教育主事の実践について」

講師: 弘前学院大学

講師 生島 美和

〈下北地区〉

第2回 7/23(木) 13:00~15:50 むつ合同庁舎 参加者数:9名

講義「分かりやすいレポート作成の視点」
 研究協議「市町村社会教育主事等の実践について」

講師：弘前大学教育学部

講師 松本 大

第3回 12/7(月) むつ合同庁舎 参加者数：12名

講義「ファシリテーションのきほん」

演習「合意形成の練習プログラム(場を作る・引き出す・深める・まとめる)」

講師：県総合社会教育センター 社会教育主事

〈三八地区〉

第2回 6/23(火) 13:30～16:30 八戸市福祉公民館 参加者数：7名

講義「社会教育主事、社会教育担当職員としての役割や事業実施にあたって留意すること」

講師：八戸市視聴覚センター・児童科学館

館長 尾崎 官一

演習「市町村における事業実践における現状と課題について」

第3回 12/18(金) 14:00～16:30 八戸市福祉公民館 参加者数：5名

演習「市町村の事業実践における現状・課題、今後の見通し」

情報交換 管内市町村実践の重点の状況、その他の事業について情報交換

〔成果と課題〕

市町村の社会教育主事及び社会教育関係職員としての実践的なスキルアップと専門性の向上を図るとともに、地域課題解決に向けた方策の検討や地域づくり人財の顔の見えるネットワークを形成することにより、各市町村の求めに応じた個別的な支援と全市町村を対象とした広域的な支援を実施することができた。

今後も引き続き、検討会や研修会を行い、市町村の社会教育の活性化に向けた支援を行う必要がある。

総合社会教育センター

パワフルAOMORI！創造塾

〔事業目的及び概要〕

新たな活動者の発掘と育成、仲間づくりの促進やネットワーク(つながり)の形成・強化、活動の活性化を目的として、対象地域を絞り2年間の理論学習や活動実践等の研修を通して、地域づくりに取り組む活動者を育成する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 講座(塾生21名)

県内全域の一般県民を対象とし、地域活動に係るノウハウ等を学ぶ講座を全8回、三村知事を講師に特別講座1回を実施した。

	期日	人数	内容・講師等
第1回	5/23(土)	59名	【パネルトーク】「わたしがコトをおこしたとき パワフル編」 コーディネーター 青森大学地域貢献センター長・教授 柏谷 至 パネリスト 東日本大震災チャリティtovo 代表 小山田 和正 八戸ハマリレーションプロジェクト 局長 古川 篤 TMG48 トワダもてなしガールズ 代表 前田 美保子
第2回	6/20(土)	34名	「地域を元気に！企画立案講座」 県総合社会教育センター職員
特別講座	7/25(土)	47名	「あおもりの元気をつくる人づくり～未来を変える挑戦～」 講師 青森県知事 三村 申吾
第3回	7/25(土)	21名	「上手に解決！活動資金講座」 講師 NPOあおもりラジオくらぶ 専務理事 小笠原 秀樹
第4回	8/22(土)	44名	「センスが光る！チラシデザイン講座」 講師 県立美術館 美術企画課 教育普及担当 片山 尊奈
第5回	9/19(土)	21名	「認知度・集客力UP！ネットde情報発信講座」 講師 エイチピースタイリング代表 高森 三樹

第6回	10/17(土)	14名	「これは試したい!人間関係づくりプログラム講座」 県総合社会教育センター職員
第7回	11/14(土)	10名	「県内厳選!団体マネジメント講座」 講師 十和田 NPO 子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子
第8回	12/12(土)	34名	【パネルトーク】「わたしがコトをおこしたとき 創造編」 コーディネーター 青森大学地域貢献センター長・教授 柏谷 至 パネリスト 市民活動団体 SMIRING 代表 桑原 富美一 カッチャート・プロジェクト 代表 たかはし たかこ イカす大畑カダル団 代表 長岡 俊成

(2) 実践活動(塾生8名)

三八地区の地域づくり活動に興味・関心がある県民を募集し、自分たちで活動実践を企画・運営することをおして、体験的に地域活動について学び、メンバー相互のネットワークの形成を図った。
実践活動「めどち☆これくしょん」(参加者220名)

制限時間内に会場に用意された昔話語り、昔遊び、運動遊び、工作体験等の企画コンテンツを巡り、ゲーム方式で三八地区の文化伝承について学ぶ、親子連れを対象としたイベントを実施。

	期日	人数	内 容
第1回	9/26(土)	7名	事業概要説明、オリエンテーション、仲間づくり
第2回	10/12(月)	7名	活動グループの立ち上げ、実践活動の企画・立案
第3回	11/ 3(火)	8名	実践活動の企画立案・決定、実践活動に向けた準備計画
第4回	12/ 5(土)	20名	実践活動に向けた最終準備、実践活動の運営確認
第5回	12/ 6(日)	30名	実践活動「めどち☆これくしょん」の実施、活動の振り返り ※イベントへの参加者220名

【成果と課題】

講座においては、県民誰もが受講できるように対象を県域とし、選択受講できるようにした結果、18市町村から164名の参加があった(のべ284名)。受講生同士の交流場면을意図的に設定したことにより、コミュニケーションが図られ、ネットワーク形成を進めることができたが、会場がいずれも県総合社会教育センターのため、近隣の市町村からの参加が多く、遠方の県民への対応について、今後考えていく必要がある。

実践活動においては、地区を限定し「自分の地域のため」という意識を高めることをねらいに実施した。在住市町村が近いということもあり、相互のコンタクトを容易にとることができ、打合せを念入りに進めたところ、実践活動「めどち☆これくしょん」では、定員を上回る申込みがあり、成功裏に終わることができた。市町村教育委員会の協力もあり、志の高い若者を集めることができ、今後も地域活動に関心のある若者を集めるため市町村と連携し、調査・周知を進めていく。

公民館と住民のアシスト講座

【事業目的及び概要】

地域コミュニティの拠点としての公民館機能を活性化するため、公民館の運営に必要な基礎的かつ実践的な知識及び技術等について研修を行い、公民館関係職員としての資質向上及び相互の連携を図る。

【事業内容及び結果】

	期日	人数	内容・講師等
第1回	5/28(木)	42名	【講義】「公民館運営の現状とこれから」 講師 青森中央学院大学経営法学部 教授 高橋 興 【パネルトーク】「わたしの公民館運営のポイント」 コーディネーター 青森中央学院大学経営法学部 教授 高橋 興 パネリスト むつ市中央公民館 館長 山本 伸一 つがる市森田公民館 館長 山谷 清彦 藤崎町藤崎公民館 館長 小笠原 睦男

第2回	6/11(木)	14名	【講義・演習】「若者が参加したくなる講座の企画」 県総合社会教育センター職員
第3回	7/ 9(木)	14名	【講義・演習】「円滑な人間関係を構築する講座運営」 県総合社会教育センター職員
第4回	1/28(木)	46名	【事例発表】「わたしのオススメ事業」 ①「集落経営再生・活性化事業」 平内町教育委員会生涯学習課 副指導監 小形 正樹 ②「自分史をつくろう」 中泊町中央公民館 係長 古川 優 ③「秋の学び舎」 藤崎町教育委員会生涯学習課 主任主査 阿部 優樹 ④「むつ市民大学」 むつ市中央公民館 主事 板垣 愛未 ⑤「南地区コミュニティ活動支援講座」 十和田市南公民館 総括主幹 沢口 強一 ⑥「さんのへ農業小学校」 三戸町中央公民館 主事 馬場 圭一 コーディネーター 弘前大学教育学部 講師 松本 大

【成果と課題】

地域コミュニティの拠点としての公民館機能を活性化させるため、館長研修の他、公民館で活用できる事例等を含めた研修を実施した。特に「若者に魅力のある講座」を主眼に実施したところ、公民館職員同士の意見交換が活発になされ、各公民館の事業へのヒントとすることができた。

今後、遠方の公民館職員への対応について考えていく必要がある。

生涯学習・社会教育関係職員研修講座

【事業目的及び概要】

生涯学習・社会教育関係職員、関係団体職員等の資質向上を目的として、地域課題の把握や具体的な解決方法を探るための理論学習、協働を活かした先進的取組事例の分析等の研修及び基礎的な研修を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 初任者研修

○対象：生涯学習・社会教育関係職員初任者

開催日	開催場所	人数	内容
5/19(火)	県総合社会教育センター	30名	(1) 県社会教育行政の方針と重点 県教育庁生涯学習課職員 (2) 生涯学習・社会教育の基礎知識 県総合社会教育センター職員 (3) 社会教育関係職員と社会教育施設(公民館)の役割について 黒石市教育委員会社会教育課 課長 駒井 昭雄 (4) 市町村の生涯学習・社会教育事業に係る情報交換 県総合社会教育センター職員

(2) 中堅職員研修

○対象：生涯学習・社会教育関係職員、関係団体職員等

○場所：県総合社会教育センター

回数	開催日	人数	内容
第1回	6/17(水)	25名	「今、社会教育に求められているものと社会教育行政の役割、生涯学習社会構築に向けて」 茨城大学社会連携センター 准教授 長谷川 幸介
第2回	8/20(木)	8名	「プレゼンカアップ!～効果的なプレゼンテーション・ソフトの活用～」 青森中央経理専門学校 教諭 佐藤 紋子
第3回	9/ 8(火)	13名	「地域づくり、人づくりを担う社会教育の重要性」 青森大学社会学部 教授 柏谷 至

第4回	11/10(火)	30名	「社会教育分野における青少年教育の実際」 弘前大学教育学部 講師 松本 大 山形県南陽市みらい戦略課 文化会館庶務係長 嶋貫 憲仁
第5回	12/7(月)	34名	「よりよい親子の関係づくり～家庭教育の重要なポイント～」 弘前大学教育学部 准教授 増田 貴人

(3) 地区研修

○対象：生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等

地区	開催日	開催場所	人数	内容
下北	5/25(月)	むつ合同庁舎大会議室	23名	「生涯学習・社会教育における社会教育施設の役割と地域人材の活用について」 青森明の星短期大学 教授 石田 一成
上北	5/29(金)	野辺地町中央公民館	85名	「学びと社会参加を通じた人財育成の方策について～『学びの種』を拾う～」 「若者が参画するまちづくり」 青森県生涯学習審議会 会長 太田 博之 つるた街プロジェクト 代表 岡 詩子 レゾナンス 代表 佐々木 弘高 ちーむ野 Open 事務局 熊谷 あかり
中南	6/25(木)	平川市文化センター	71名	「学びのきっかけと社会参加活動の在り方～地域づくり・まちづくりの実践事例～」 「新しい地域づくりのための社会参加の在り方」 つるた街プロジェクト 代表 岡 詩子 プロジェクトおおわに事業協同組合 副理事長 相馬 康穂 (公社)弘前観光コンベンション協会 事務局長 坂本 崇
三八	7/7(火)	八戸市福祉公民館	18名	「青年層を中心とした活動及び社会参加活動を推進するために、行政ができること」 「子どもをまんな中に置いた組織活動の活性化と行政、家庭、地域の役割」 MisawaArtProject 代表 田村 宣喜 プロジェクトおおわに事業協同組合 副理事長 相馬 康穂 県総合社会教育センター職員
東青	7/15(水)	県総合社会教育センター	15名	「子どもたちの豊かな感性を育てるために」 「県立図書館と子どもの読書活動のすすめ」 七戸町立鷹山宇一記念美術館 館長 鷹山 ひばり 青森県立図書館奉仕課 主幹・司書(副課長) 渡辺 歩
西北	9/10(木)	五所川原市中央公民館	21名	「既存施設の活用と住民のネットワークを生かした地域の活性化について」 弘前大学大学院地域社会研究科 研究科長・教授 北原 啓司

[成果と課題]

中堅職員研修では6つの分野（社会教育・生涯教育・情報教育・地域活動・青年教育・家庭教育）において、事業の企画・運営・評価を主なテーマとして講座を実施し、地区研修では、各地区の地域課題に対応した内容の講座を実施したところ、参加者の満足度は非常に高く好評であった。今後は中堅職員研修、地区研修の講座の精選と受講者のニーズに合わせた研修内容を継続していく必要がある。

(3) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

- ア 関係機関との連携による多様な学習活動の支援
イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

生涯学習課

アクティブシニアによる地域の未来応援事業

【事業目的及び概要】

人口減少下における地域コミュニティの持続と活性化のため、社会参加活動に積極的に取り組むシニア世代及びその前段階にあるプレシニア世代を「アクティブシニア」と称し、アクティブシニアの持つ知識、技術、経験を学校支援、家庭教育支援、子どもの地域活動支援などに生かすモデル事業を実施するとともに、アクティブシニアの掘り起こしを図るフォーラムや講座等に取り組むものである。

【事業内容及び結果】

(1) 地域の未来応援実践モデルの構築（地域の未来応援実践モデル事業）

県内 12 団体への事業委託により実施した。

No.	地区	団体名	所在地	会員数	事業名	事業分野		
						学	家	地
1	東青	Team/910	青森市	5	郷土文化教育推進事業(ねぶた教育編)	○		
2	東青	特定非営利活動法人 日本の農業を考える会	青森市	10	シニアもジュニアもみんなで体験！「持続可能な農業」			○
3	東青	西中冬の防災キャンプ実行委員会	青森市	13	西中 冬の防災キャンプ	○		○
4	東青	ネットワーク A・L	青森市	20	「すくすく育て！」プロジェクト		○	
5	東青	「港町町会グラウンドゴルフ愛好会」発足準備委員会	青森市	13	グラウンドゴルフの普及による町民の世代間交流の促進と健康増進に係る取組			○
6	中南	おはなしりんごっこ	黒石市	6	じい〜じ・ばあ〜ばの子ども時代にタイムスリップ			○
7	中南	北地区自主防災組織	黒石市	9	『地域で学ぶ防災』防災意識を向上させよう！プロジェクト			○
8	中南	大鰐町子ども団体連絡協議会	大鰐町	16	「みんなでつながろう、わにっこ子育てプロジェクト」		○	
9	西北	特定非営利活動法人 子どもネットワーク・すてっぷ	五所川原市	13	プロに学ぼう！地域の食材とおいしい料理			○
10	西北	特定非営利活動法人 つがる夢庭志仙会	つがる市	13	エコリン学校プロジェクト			○
11	上北	ちーむ野 open	野辺地町	11	「後世に伝えよう！！ 野辺地の文化 ” 祭り日 ”」	○		○
12	下北	むつ市生活介護サポーター連絡協議会(りんどうの会)	むつ市	34	キッズクラブ結成による、次代の担い手育成プロジェクト			○

※事業分野について

学：学校支援に係る取組

家：家庭教育支援に係る取組

地：子どもの地域活動支援に係る取組

(2) シニアのファシリテーション能力の向上

※ファシリテーション能力：学びや活動を促進する力、調整能力、合意形成を引き出す能力

ア 地域づくりワークショップ

○日 時 7/12(日)10:30~16:00

- 会 場 県総合社会教育センター
- 参加者数 43名
- 内 容

午 前 の 部	【講義】 「アクティブシニアによる地域づくりと住民合意の必要性」 担当：県総合社会教育センター職員		
	【演習】 「地域をいきいきさせるアクションプラン」 講師：弘前大学生涯学習教育研究センター		講師 深作 拓郎
午 後 の 部	【事例発表】 秋田県北秋田市 合川地区駅前地域活性化協議会 村形 栄悦 宮城県大和町 まちづくり遊楽塾 赤坂 隆一 岩手県二戸市 NPO 法人カシオペア連邦地域づくりサポーターズ 浪岡 洋一		
	【パネルトーク】 「住民一人ひとりの力楽しい地域を！」 コーディネーター：弘前大学生涯学習教育研究センター パネリスト：事例発表者3名		講師 深作 拓郎
	【交流タイム】 【講評】弘前大学生涯学習教育研究センター		講師 深作 拓郎

イ 地域づくりファシリテーター養成講座

	実施日時・会場・参加者数	(午前)講義・演習	(午後)講義・演習
青森会場	【実施日時】 9/5(土) 10:30～15:30 【会場】 県総合社会教育センター 【参加者数】24名	【内容】 「ファシリテーションのきほん」 【担当】 県総合社会教育センター職員	【内容】 「地域づくり活動におけるファシリテーターの重要性」 【講師】 弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎
板柳会場	【実施日時】 9/6(日) 10:30～15:30 【会場】 板柳町多目的ホールあふる 【参加者数】15名		
三沢会場	【実施日時】 9/5(土) 10:30～15:30 【会場】 三沢市公会堂 【参加者数】11名		【内容】 「地域づくり活動におけるファシリテーターの重要性」 【講師】 弘前大学教育学部 講師 松本 大
八戸会場	【実施日時】 9/5(土) 10:30～15:30 【会場】 八戸市福祉公民館 【参加者数】15名		

(3) 市町村と活動団体のネットワークの形成

ア あおもりの未来を創るアクティブシニア応援セミナー（アクティブシニア応援担当者会議）開催

- 日 時 3/17(木)13:00～16:00
- 会 場 県総合社会教育センター
- 参加者数 95名
- 内 容

・講演

演 題：社会に参画し、健康寿命を伸ばし、高齢期を生き抜く

- 活動から離れれば「生きる力」を失い、役割から離れれば、志を失う -

講師：生涯学習・社会システム研究者

三浦 清一郎

・実践発表

全体発表…発表団体(Team/910、ちーむ野 open、むつ市生活介護サポーター連絡協議会)
ポスターセッション…地域の未来応援実践モデル事業 12 団体

・テーブルトーク

イ 地域づくり先進地視察交流会

	実施日時・参加者数	内 容
北秋田市コース	【実施日】 11/1(土) 【参加者数】 39 名	・長岐邸見学・事例発表 発表者 おさるべ元気クラブ 代表 長岐 直介 ・合川駅まつり見学 ・合川駅前活性化協議会との交流会・事例発表 発表者 合川駅前地域活性化協議会 事務局長 村形 栄悦
二戸市コース	【実施日】 11/1(土) 【参加者数】 35 名	・二戸市門崎地区の取組見学・事例発表 発表者 浄門の里づくり協議会 代表 佐藤 勘悦 コーディネーター NPO 法人カシオペア連邦地域づくりサポーターズ 理事兼事務局長 千葉 千賀 ・岩手県地域づくり団体との交流・事例発表 発表者 ぎばって足沢70の会 会長 上野 司 二戸健康マージャンボランティア 事務局長 西村 牧男 よりゃんせ金田一 事務局長 嶋野 佳子 コーディネーター NPO 法人カシオペア連邦地域づくりサポーターズ 代表理事 浪岡 洋一
鳴子温泉コース	【実施日】 12/5(土)～6 日(日) 【参加者数】 24 名	・多賀城市市民活動サポートセンター見学・事例発表 発表者 多賀城市市民活動サポートセンター 情報班主任 榎田 洋一 仙台市シニア活動支援センター 小林 正夫 ・東鳴子ゆめ会議との交流会・事例発表 発表者 まちづくり遊楽塾 座長 赤坂 隆一 NPO 東鳴子ゆめ会議 理事長 大沼 伸治 ・エコラの森にて地域づくり団体との交流会・事例発表 発表者 NPO しんりん 理事長 大場 隆博 さとのわ 代表 鈴木 美樹

(4) 社会参加活動の拡大と普及・啓発

ア 地域の未来応援フォーラムの開催

○日 時 平成 27 年 6 月 27 日(土)13:00～16:30

○会 場 県総合社会教育センター

○参加者数 180 名

○内 容

・基調講演

演 題：アクティブシニアがつくる新しい「社会」

- 少子高齢・人口減少社会におけるアクティブシニアの役割 -

講 師：東京大学大学院教育学研究科教授

牧野 篤

・パネルディスカッション

テーマ：地域コミュニティ活性化の具体的な取り組みとシニア世代の社会参加活動の拡大に向けて

コーディネーター：あおもりコミュニティビジネスサポートセンター

山 田 さとみ

パネリスト：NPO 法人子育て応援隊ココネットあおもり
 プロジェクトおおわに事業協同組合
 Women's Vision/ホッケーガイプロジェクト
 川代地区振興会

沼田 久美
 相馬 康穂
 岩本 ヤヨエ
 小笠原 敏彦

イ 活動PR誌、チラシの作成及び配付

- 冊子名 『アクティブシニアが地域の未来を創り出す！！』
- 作成数 冊子2,000部、リーフレット10,000部
- 配付先 県内各市町村及び市町村教育委員会、県内各金融機関、道の駅等

[成果と課題]

モデル事業の実践を通して、社会参加活動に積極的に取り組むアクティブシニアの掘り起こしにつながる成果を得ることができるとともに、他の団体との連携による新たな活動の方向性も見えてきたという報告が寄せられた。また、フォーラムや交流会を通じてシニア・プレシニア世代の地域活動実践者の活動意欲を高めるとともに、各種講座を通じてファシリテーション能力を高めることができた。

今後の課題としては、今後シニア・プレシニア世代の地域活動を支援する役割を担う市町村の窓口を明確にし、そのネットワーク化を図っていくことである。

県立学校開放事業

[事業目的及び概要]

県民の生涯学習の推進と開かれた学校づくりの促進を目的として、特別支援学校の有する専門性の高い教育機能を開放し、県民の生涯学習の推進及び開かれた学校づくりの促進を図る事業である。

[事業内容及び結果]

学 校 名	期 間	日 数	内 容	受講者数 (延べ数)
県立盲学校	8月	2日	点字入門と歩行援助	12 (13)
八戸盲学校	7月～9月	7日	視覚障害理解入門	2 (12)
青森聾学校	6月～8月	7日	手話講座	18 (94)
八戸聾学校	7～8月	4日	八戸聾学校の芸術入門	3 (10)
青森若葉養護学校	7月～8月	4日	タブレットを活用した動画作成・編集	5 (24)

[成果と課題]

特別支援学校が有する、より専門性の高い学校機能の開放を目的に、特別支援学校のみで講座を開設している。受講者のアンケートによれば、いずれの講座も満足度は高く、県民の多様な学習ニーズに対応できている。

一方で、講座開設校がある地区に限られているため、県内各地域で県民の学習ニーズにこたえられるよう、未開催地区での講座開設が課題である。

総合社会教育センター

あおもり県民カレッジ運營業務

[事業目的及び概要]

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

[事業内容]

- (1) あおもり県民カレッジの運営全般
 - ア あおもり県民カレッジ連携機関との関係強化
 - ・連携機関登録団体に対し、協力関係の継続を依頼。

27年度事業の実績

※連携機関数：671 機関(体験施設 145 か所を含む)※2/28 現在

- ・訪問による新規連携機関勧誘活動を実施。
- ・講座開催における協力などを通して、関係強化を推進。

イ 生涯学習支援のネットワーク構築

ウ 事務局の運営(県民カレッジ学生への連絡、連携機関との連絡調整、運営に関わる事務)

※あおり県民カレッジ学生数 19,300 名(新規 800 名)

[教養学習コース 15,383 名(新規 242 名)]

[子どもカレッジコース 3,917 名(新規 558 名)] [うちジュニアコース 3,559 名(新規 556 名)]

(2) 普及啓発事業

ア 学生募集(ポスターやパンフレットの作成)

- ・あおり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」による募集
- ・幼稚園、保育所、小学校、老人ホーム、企業、団体への訪問
- ・連携機関等イベントでの、県民カレッジブース出展による募集

イ 生涯学習フェア 2015 の開催(10/3(土))

- ・オープニング
- ・高校生地域貢献活動実践発表
実践発表 柏木農業高等学校「未来創出プロジェクト」
青森第一高等養護学校「青森一高養ブランド」
- ・大学生によるキャンパスライフ紹介(参加大学 12 校)
- ・あおり県民カレッジ認定証交付式
- ・学びのワークショップ(青森県に関するクイズワークショップの開催)
- ・あおり県民カレッジ連携機関等による講座、実習、体験、展示、センター事業紹介等
- ・我が社は学校教育サポーター登録企業等による出前授業・実演
出前授業実践企業 青森愛犬美容専門学校、青森市薬剤師会
青森テレビ、青森県金融広報委員会
- ・未来を逞しく生きる高校生応援事業による販売実習・展示・体験
- ・館内冒険スタンプラリー

※入場者数 2,100 名

ウ 生涯学習HPの作成

- ・生涯学習情報サイト<alisinfo.jp>作成及び随時更新
- ・連携機関の講座情報の更新
- ・地域キャンパス講座の情報ページの運用
- ・「講座アーカイブ」を開設し、講座の様子を YouTube に公開している

※配信数 27 コンテンツ

(3) 学習情報提供・学習相談事業

ア 学習機会情報の収集及び提供

- ・連携機関に対し新たな講座情報登録を依頼
- ・連携機関等訪問による講座情報の調査収集

イ 活動機会情報の収集及び提供

- ・ボランティア相談に対し、受入れ団体の情報を収集、提供

ウ 学習相談の実施

- ・窓口・電話・FAX・郵便・Eメールによる学習相談の受付

※相談数 190 件

エ 県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」の発行

- ・あおり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」発行(年 6 回)

(4) 学習機会提供事業

ア 地域キャンパス講座(県内 6 地区)開催

※開催数 東青 14 回、中南 8 回、三八 10 回、西北 9 回、上北 6 回、下北 8 回

※受講者数 のべ 3,236 名

イ ボランティア活用支援

- ・ボランティア講師登録の奨励と自主講座の開催

※講師登録数 53 名

※講座数 129 講座 のべ 1,987 名

ウ 専門講座の開催

(5) 評価サービス及び学習成果の活用支援事業

ア 認定証・奨励証の交付

※認定証交付数

教養学習コース 433 名 子どもカレッジコース 51 名

イ ボランティア証明書の発行

[成果と課題]

学籍状況は自然減や少子高齢化等の影響もあり、教養学習コースの学生数は微減となっている。しかし、子どもカレッジの学生数は指定管理者の自主努力により増加し、全体としての学生数は微増している。また、連携機関数も前年比で 42 機関増加している。地域キャンパス講座については、連携機関の協力の基、各地区における講座数も増え、のべ受講者数は前年比で約 2 倍となっている。

教養学習コースの学生数を増加させるため、連携機関との関係を強化し、多様化・複雑化する県民の学習ニーズに対応できる生涯学習システムを見直していく必要があると思われる。

元気青森人を創造する e ラーニング推進事業

[事業目的及び概要]

県民の誰もがいつでもどこでも手軽に学習できることを目的として、インターネットによる自己の生き方や働き方について考えたり人生設計したりするための学習講座の配信を行う事業である。

[事業内容及び結果]

インターネットによる学習教材の配信(e ラーニング)

(1) 元気青森人 PowerUp コンテンツ	計 123 本	(アクセス件数 : 5,700 件)
ア 公開講座	6 本	
イ ワンポイントアドバイス	12 本	
ウ はたらく心	94 本	
エ 関係機関リンク	11 件	
(2) あおもり学インターネット講座	計 44 本	(アクセス件数 : 6,636 件)
ア あおもりの自然	10 本	
イ 我がふるさとあおもり	10 本	
ウ あおもり学特別講座	23 本	
エ 青森県の先人	1 本	
(3) あおもり子育てネット	計 73 本	(アクセス件数 : 24,976 件)
ア 家庭教育支援コンテンツ	30 本	
イ 家庭教育支援啓発教材	6 本	
ウ センター企画テレビ放送番組	20 本	
エ 子育てワンポイントアドバイス	10 本	
オ 公開講座	7 本	

[成果と課題]

e ラーニングコンテンツのアクセス件数については、カウント方法が変更になったため数字としては減少しているが、年間を通じてコンスタントに利用されている。今後も利用率向上のため、コンテンツの充実を図る。

学習情報の収集・提供事業

[事業目的及び概要]

県民の学習活動を支援することを目的として、各種学習情報を収集し、インターネットにより県民に提供するとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 学習情報の収集・提供

4 情報(学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材)の収集・提供を行った。

・登録データ件数	学習機会情報	2,023 件
	団体・サークル情報	1,088 件
	指導者人材情報	1,413 件

	視聴覚教材情報	20,210 件
	計	24,734 件
・ありすネットアクセス回数	学習機会情報	4,851 回
	団体・サークル情報	1,276 回
	指導者人材情報	1,308 回
	視聴覚教材情報	1,044 回
	全情報	881 回
	計	9,360 回
・ありすネット検索回数	学習機会情報	2,486 回
	団体・サークル情報	789 回
	指導者人材情報	729 回
	視聴覚教材情報	1,069 回
	全情報	668 回
	計	5,741 回

(2) サーバ・パソコン機器等維持管理

青森県学習情報提供システム用サーバ・パソコン機器等の維持管理を行った。

[成果と課題]

学習機会情報の登録件数が前年度から増加したことで、これを反映するようにアクセス回数、検索回数も増加した。ただし、利用者によるWeb経由での情報登録件数が低いことから、利用者側の情報登録方法を簡易にするなど、今後システムを改善していく必要がある。

青森県視聴覚ライブラリー運営事業

[事業目的及び概要]

16mm フィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともにその活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を運営する事業である。

[事業内容及び結果]

- (1) 生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
- (2) 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材の提供
- (3) 教育メディア利用セミナーの開催(兼放送教育研究会東北大会青森大会社会教育部会)

○開催日：11/13(金)

○会場：県総合社会教育センター

○趣旨：教育の場における視聴覚メディアや情報通信メディアの利用促進と、その効果的な利用方法を研究することを目的とし、教育関係者の教育メディア利用に対する知識を高めるとともに、学校及び社会教育におけるメディア利用学習の実践事例から効果的な利用方法を研究する。

○対象：公民館等社会教育施設の職員、指導主事、社会教育主事及び教育委員会の関係職員、各地域視聴覚教育協議会関係者、地域視聴覚ライブラリー職員、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員等

○参加人数：24名

○内容：開会式

基調講演 演題：「インターネットを活用した社会教育の実践と検証、インターネットに対する今後の展望について」

講師：富山大学人間発達科学部 教授 山西 潤一
 事例発表 テーマ：「タブレット端末を活用した社会教育における実践事例」
 発表者：Misawa Art Project 代表 田村 宣喜
 社会教育関係団体楓組 代表 渡辺 俊一

閉会式

- (4) 青森県視聴覚ライブラリー連絡協議会への加入
- (5) 視聴覚教材の購入 16本

[成果と課題]

セミナーでは、タブレット端末を活用した社会教育における視聴覚教育の在り方と視聴覚ライブラリーの今後の可能性を探り、県内の社会教育における ICT 教育を推進するきっかけづくりとなった。今後、さらに地域の教育資源・人財を活用した学習におけるタブレット端末の活用効果について周知していく必要がある。

ボランティア活動支援機関連絡会議

〔事業目的及び概要〕

ボランティア活動を支援する機関のネットワークの構築・強化を図ることを目的とし、情報共有・情報交換を行う会議を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

あおもり県民カレッジの連携機関は、県民に広く講座を実施している機関、団体で構成されており、学習ボランティアという視点からボランティア活動支援に関する議題について意見交換した。

地区	月日	開催場所	参加団体数
東青	4/22 (水)	青森県総合社会教育センター	27 団体
中南	4/28 (火)	青森県武道館	15 団体
上北	5/20 (水)	青森県立三沢航空科学館	5 団体
三八	5/22 (金)	八戸市水産科学館マリメント	9 団体
西北	5/27 (水)	ELM 文化センター	9 団体
下北	5/29 (金)	むつ市立図書館	7 団体

〔成果と課題〕

多くの団体がボランティアを必要とする時に「必要人数が集まらない」「どこに募集をかけて良いかわからない」などの悩みを持っており、一方で社会参加活動を活動の主体としている団体とのコーディネート役がないなどの課題があることが浮き彫りとなった。

県立図書館

近代文学館 特別展開催

〔事業目的及び概要〕

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 特別展「青森の文学者たちの戦前・戦中」

- 会期：7/18(土)～9/23(水)
- 場所：近代文学館企画展示室
- 内容：昭和6年、満州事変が勃発し、日本は戦争への道を歩き出す。青森県出身・在住の文学者たちも大勢が時代の波に翻弄された。エノケン一座に見送られて出征した菊谷栄は昭和12年に戦死。北村小松は海軍報道班員として従軍、太平洋戦争中は南方諸島に赴いた。石坂洋次郎は陸軍報道班員としてフィリピンに従軍。召集を受けた今官一は戦艦長門に乗り、レイテ沖海戦を経験した。太宰治は防空壕での体験を基に「お伽草紙」を生み出し、郷里に疎開している。戦後70年を機に、青森の文学者たちが戦前・戦中をどのように生きたのか振り返り、文学が持つ力の大きさに光を当てる展示を行った。
- 展示資料：158点(原稿・草稿7点、書簡2点、書画4点、自筆資料6点、遺品8点、印刷物6点、雑誌72点、新聞3点、図書50点)
- 来場者数：5,448名

(2) 第1回文学講座

- 日時：7/26(日)
- 場所：県総合社会教育センター大研修室
- 内容：講演「戦時下の読書から得たもの」 講師 日本エッセイスト・クラブ会員 佐藤きむ
講演「歴史と人間―戦中戦後の意味と無意味」 講師 文芸評論家・日本芸術院会員 三浦雅士
- 来場者数：121名

(3) 第2回文学講座

- 日時：8/23(日)
- 場所：県総合社会教育センター大研修室
- 内容：講演「津軽疎開時代の太宰治」 講師 弘前大学教育学部講師 仁平政人
講演「本と戦争」 講師元青森県文芸協会出版部長 佐々木達司

○来場者数：90名

(4) 日曜講座

- 日時：9/13(日)
- 場所：県立図書館研修室
- 内容：講演「昭和元年から終戦までの青森県文学史」 青森県近代文学館
- 来場者数：21名

(5) 特別展パネル展

- 期間：10/3(土)～12/8(火)
- 会場：木造高校・名久井農業高校・青森高校・黒石高校・県総合社会教育センター・県近代文学館
- 内容：特別展の内容を13枚のパネルに再構成し、各会場で展示した。
- 来場者数：6,992名

[成果と課題]

三浦雅士氏の「戦前戦中戦後の意味」をはじめ、6人の専門家から図録およびパネル原稿を寄稿していただいた。また当館職員の手により昭和元年から20年までの概説と「戦前・戦中における青森県文学史年表」を用意。人物・時代の二方面からアプローチし、「青森の文学者たちの戦前・戦中」の実態に肉薄することができた。話題性の高かった展示資料では、高木恭造『まるめろ』初版本（弘前市立郷土文学館蔵）、『青森県プロレタリア詩集』（五所川原市立図書館蔵）といった稀覯本、三田循司宛太宰治葉書2通（日本現代詩歌文学館蔵）、「正義と微笑」「右大臣実朝」「『惜別』の意図」の太宰原稿3点（いずれも日本近代文学館蔵）等が挙げられる。「月刊東奥」等、戦時下の雰囲気が見える雑誌を多数展示し、総資料点数は158点、来館者数および文学講座参加者数ともに昨年を上回った。

青森県の近代文学に関する理解を深めるにあたり、文学になじみのない方々にも興味を持ってもらえるような分かりやすい解説、展示および広報の仕方が課題である。

近代文学館 企画展開催

[事業目的及び概要]

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を展示・公開する企画展を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

- (1) 「青森県近代文学館名品展 2—文学者たちの絆」
 - 会期：4/25(土)～6/21(日)
 - 場所：近代文学館企画展示室
 - 内容：文学という絆で強く結ばれた県ゆかりの文学者たちの群像を、前年度の名品展に引き続き、貴重な資料とともに紹介した。
 - 展示資料数：87点(書画15点、書簡4点、原稿12点、遺品2点、雑誌20点、図書31点、印刷物2点、その他1点)
 - 来場者数：2,766名
- (2) 「戦後—青森文学と青森の復興」
 - 会期：10/24(土)～12/13(日)
 - 場所：近代文学館企画展示室
 - 内容：戦後70年の節目を迎え、焦土から立ち上がる青森県の姿を、文学の復興をとおして紹介した。
 - 展示資料数：158点(原稿13点、自筆資料1点、書画9点、印刷物7点、写真4点、新聞3点、図書48点、雑誌70点、その他3点)
 - 来場者数：3,291名
- (3) 「本はもう一人の私—児童文学者・鈴木喜代春」

- 会期：1/30(土)～4/10(日)
- 場所：近代文学館企画展示室
- 内容：青森県を代表する児童文学者・鈴木喜代春の作品と業績を紹介した。
- 展示資料数：280点(草稿17点、自筆資料16点、書画8点、書簡4点、印刷物10点、図書210点、雑誌12点、その他3点)
- 来場者数：2,491名

[成果と課題]

「青森県近代文学館名品展 2—文学者たちの絆」では、県ゆかりの作家同士のつながりに加え、中央で活躍する著名な文学者等と県ゆかりの作家の交流について12のエピソードを資料とともに紹介。複数の交流エピソードを一展示室内に展開させたことで、青森文学形成についての一特徴を浮き彫りにできた。

「戦後—青森文学と青森の復興」では、戦後入手困難だった「紙」に焦点をあて、青森ゆかりの文学者たちが文学復興に向けた情熱の諸相を紹介。戦後の紙不足により、空襲で沈んだ青函連絡船に積載されていた「風船爆弾の紙」を海から引き上げて使用したとされる俳誌「暖鳥」、人々の活字への渴望に応じて次々と出版されては消えていった「カストリ雑誌」、太宰治を初め県出身作家たちの華々しい活動を物語る新聞記事、原稿等の資料を展示。戦前・戦中を扱った特別展の続編の展示であり、これによって戦争と青森文学の関係性を一望することとなった。

「本はもう一人のわたし—児童文学者・鈴木喜代春」では、当館に鈴木氏から寄贈された数多くの自著、原稿等を展示し、その生涯と業績を、社会情勢・教育情勢とともに紹介。平成27年に90歳となった鈴木氏の生涯の紹介は、教育を切り口にしたもうひとつの戦後展だった。

企画展開催によって得られた成果をもとに、資料の整理・収集・調査をさらに進め、県民の青森県の文学に関する理解を一層深める展示等につなげることが課題である。

アウトリーチサービス推進事業

[事業目的及び概要]

来館による図書館利用が困難な重度心身障害者や要介護高齢者等に対して、宅配便による図書の搬送を行い、来館しなくても図書館資料を利用できる環境を提供する事業である。

[事業内容及び結果]

- 登録者数：47名（うち新規登録者数1名）
- 貸出：件数192件 冊数816点

[成果と課題]

県立図書館に直接来館することが難しい障害者や高齢者等に対して、サービスを提供することができた。

利用者が求める図書や資料を的確に探し出し、提供することが課題である。

(4) 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

生涯学習課

生涯学習推進基盤整備事業(生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会)

[事業目的及び概要]

生涯学習振興法の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制を整備するため、生涯学習推進本部等を運営するとともに、生涯学習推進に資する施策の重要事項について総合的に調査、審議するため、生涯学習審議会を運営する。

[事業内容及び結果]

(1) 生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携、協力を図り、生涯学習関連施策を一体的、効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめた。

(2) 青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年（H26/8/21～H28/8/20）

○審議テーマ：「ふるさとの良さ、あおもりの魅力を次代に伝えるための、学びと地域のつながりづくりの在り方について」

○会議等の概要：第3回審議会 7/17(金)

- ・審議テーマに基づく審議の柱の内容について
 - ・審議テーマに関連する先進事例視察の実施希望について
- 先進事例視察 11/24(火)～11/25(水)

・秋田県鹿角市「かづの若者会議」

・秋田県五城目町「五城目町地域活性化支援センター」

第4回審議会 3/17(木)

・先進事例視察の報告

・報告書の骨子について

[成果と課題]

第3回審議会では、第2回審議会の審議内容を踏まえ審議テーマを決定するとともに、審議の柱立てを行い議論を深めた。また、先進事例視察については、秋田県内の2ヶ所を訪問したいとの希望が出た。

これを踏まえ、会長が訪問先を決定し、11月に委員5名により視察を行った。

第4回審議会では、視察に参加した委員から報告があり、これまでの審議と視察の内容から作成した報告書の骨子について審議した。

今後は引き続き報告書の成案について審議いただき、報告書を教育長に提出する予定である。

生涯学習・社会教育総合調査研究事業

[事業目的及び概要]

本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、生涯学習・社会教育推進に関する調査・研究を行う事業である。

[事業内容及び結果]

今年度は、学習活動に関する県民の意識や行動について、一般県民3,000人を対象に調査を行った。

○調査テーマ：「学習活動に関する県民の意識調査」

○調査対象：一般県民3,000人

○有効回答：877人(29.2%)

○顧問の委嘱：調査研究に係る指導助言のため、調査研究顧問を委嘱した。

青森大学社会学部 教授 柏谷 至

弘前大学教育学部 講師 松本 大

○報告書 : 450部を印刷し、関係機関へ配付した。

[成果と課題]

県民の学習活動実施の割合は全国と比較して高いことや、学習活動の目的が趣味や生活よりも仕事志向の傾向があること、学習活動をする方が社会参加活動にも積極的であることがわかった。また、インターネットやゲームは利用しない方が多く、利用すると回答した方も短時間利用者が多いことから、学習活動を阻害する大きな要因にはなっていないこともわかった。

今後は、調査研究の成果を生涯学習関連施策・事業に生かしていく。

青森県社会教育委員の運営

[事業目的及び概要]

本県の社会教育推進体制の充実を図ることを目的として、社会教育法第17条に基づき青森県社会教育委員を設置し、審議及び調査研究を行い、県教育委員会に答申、建議を行うため、会議を運営する。

[事業内容及び結果]

第32期青森県社会教育委員

○委員：12名（うち専門部会委員5名、委員名簿はP46に掲載）

○任期：2年（H26/10/19～H28/10/18）

○第32期青森県社会教育委員の会議における調査研究テーマ

「学びとつながりを生み出す家庭教育支援の在り方」

○会議の概要

第1回専門部会 5/19(火)：実地調査について

第3回全体会 9/16(水)：専門部会報告、実地調査、インタビュー調査シートについて

第2回専門部会 3/14(月)：調査結果の精査、調査研究報告書の骨子について

[成果と課題]

本県社会教育の振興方策に資するため、県内9か所の団体を訪問調査した。第32期調査研究報告書作成に向けて、調査結果の精査や調査研究報告書骨子について活発な協議、意見交換がなされた。

今後は、調査研究で得られた成果を県内の社会教育関係者が広く活用できるよう、調査研究報告書の内容を精査するとともに、広く周知する必要がある。

市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県の社会教育行政」の作成

[事業目的及び概要]

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的として、各市町村における社会教育事業実施状況及び社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査する事業である。

[事業内容及び結果]

市町村の社会教育行政調査

市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査

「平成27年度青森県の社会教育行政」の作成配付（600部作成予定）

[成果と課題]

「青森県の社会教育行政」の作成にあたっては、体裁に注意をして、社会教育行政関係者が見やすい利用しやすいように編集を行った。

市町村の社会教育活性化支援事業（再掲）

(P87 (2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成に掲載)

社会教育主事派遣事業

[事業目的及び概要]

町村等の社会教育行政及び社会教育指導体制の充実を図ることを目的として、社会教育主事の資格を有する学校職員を町村等教育委員会に派遣する事業である。

[事業内容及び結果]

派遣先 上北地方教育・福祉事務組合

派遣者数 1名

[成果と課題]

派遣社会教育主事と事務組合任用の社会教育主事及び社会教育担当職員が連携して業務遂行に当たり、社会教育指導体制の充実が図られている。

生涯学習専門講座派遣事業

[事業目的及び概要]

生涯学習の振興において中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

[事業内容及び結果]

派遣先 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

講座名・派遣者数 社会教育主事専門講座 1名、地域教育力を高めるボランティアセミナー1名

[成果と課題]

派遣された者は、他県の事例を学び情報交換することで、今後の業務に役立てることができた。

講座は、演習や事例研究が多く設定されていることから、今後も専門的教育職員を育成するため、引き続き派遣し、最新の知見を得る必要がある。

社会教育主事等一般研修

[事業目的及び概要]

教育事務所の社会教育主事や新任の県社会教育関係職員が一堂に会し、研修と情報交換を行い、社会教育主事としてのスキルアップを図る。

[事業内容及び結果]

研修会の開催 2回

○開催日 5/11(月)、2/23(火)

市町村の社会教育活性化支援事業(P87)の(3)市町村社会主事専門研修における中央研修として実施

社会教育主事有資格者育成派遣事業

[事業目的及び概要]

社会教育指導体制の充実を図り、社会教育主事有資格者を育成することを目的として、教育事務所等の指導主事、小・中学校の教員を社会教育主事講習に派遣する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 社会教育主事講習(国立大学法人秋田大学)への派遣

研修期間 7/14(火)～8/7(金) ※7/14～7/17は宿泊研修(岩城少年自然の家)

派遣人数 教育事務所指導主事2名、梵珠少年自然の家指導主事1名、中学校教員2名

※このほか、町職員1名が受講した。

(2) 社会教育主事講習[B](国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)への派遣

研修期間 1/20(水)～2/26(金)

派遣人数 県総合社会教育センター指導主事1名

[成果と課題]

東青、三八の教育事務所及び梵珠少年自然の家の指導主事が秋田大学での社会教育主事講習を修了し、10月1日付けで社会教育主事に発令された。

また、上北及び三八地区の中学校教員各1名が社会教育主事有資格者となった。

社会教育主事を増やすことで、今後さらなる社会教育主事体制の充実を図っていく。

ボランティア関係機関職員養成講座

[事業目的及び概要]

ボランティア関係機関職員の専門性と資質の向上を目的とし、本県の社会参加活動の推進及び充実を図る事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 対象 市町村教育委員会及び首長部局担当者、市町村ボランティア担当者、各市町村ボランティア連絡協議会等

(2) 参加者総数 54名

(3) 内容

ア 講座

○場所 県総合社会教育センター

回	開催日	内 容
1	6/10 (水) 参加者 19名	【講義・演習】 「東日本大震災津波からの復興と地域活動～岩手県釜石市の事例から～」 講師 岩手県立大学総合政策学部 教授 吉野 英岐
2	9/2 (水) 参加者 19名	【講義・演習】 「海外ボランティアの経験を地域で活かす ～世界に思いを馳せ、地域で考え行動する～」 講師 青森田中学園キャリア支援センター職員 相馬 多一郎
3	10/19(月) 参加者 16名	【講義・演習】 「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築を目指して」 講師 弘前学院大学社会福祉学部 准教授 高橋 和幸 【事例発表】 中泊町社会福祉協議会 法人運営課長補佐 下山 功樹 平内町社会福祉協議会 主任 井筒 健一

【成果と課題】

成果として、スキルアップにつながる研修を実施したことで、参加者の資質向上が高まりや仕事への自信に繋がり、自分の事業等を行うヒントになった。

課題として、次年度は業種の違う参加者間の情報交換や情報共有がさらに活性化できるよう、ネットワークの構築に努めていく必要がある。

在学青少年育成費補助事業

【事業目的及び概要】

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、県内の在学青少年(高校生)を対象とした講演会事業に対して助成を行う事業である。

【事業内容及び結果】

高校生を対象とする講演会の開催

○内容：東京及びその近郊に在住する青森県出身者ならびに青森県にゆかりのある方々を講師に、高校生を対象とした講演会を開催した。

○実施主体と協力団体：東京青森県人会、青森県高等学校長協会

開催日	場所	参加 生徒 数	内 容
9/14(月)	百石高等学校	480名	演題 「いのちの話」 講師 社会福祉法人 博愛福祉会
9/15(火)	青森東高等学校平内校舎	120名	理事長 福田 博幸
10/ 6(火)	五所川原工業高等学校	420名	演題 「すべて汝がことなかれ」 講師 (株)エム・ジー・アール
10/ 7(水)	岩木高等学校	210名	代表 柴田 覚
10/23(金)	三戸高等学校	210名	演題 「地方・中央・アジア・世界～八戸を離れて 50年～」 講師 (株)NHKエンタープライズ国際事業セ ンター(海外推進)
10/23(金)	八戸聖ウルスラ学院高等学 校	600名	執行役員 吉村 聡一郎

【成果と課題】

各講演会とも、講師が県内出身者であり、高校生にとっては、職業観や人生観、命の大切さ、新しい

分野に挑戦し続ける姿勢の大切さなどキャリア教育の一環として有益な講演であった。
高等学校から依頼された講演内容に合致した県内出身の講師を選定する必要がある。

青森県連合青年団活動費補助事業

〔事業目的及び概要〕

県内の青年による活動の振興を図るために、青森県連合青年団が行う事業に対し助成を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

青森県連合青年団が実施する下記の事業に助成する。

補助対象事業名	期日	開催場所	参加人数
第 64 回青森県青年大会 (主催事業)	9/13(日)	八戸市	8 名
第 64 回全国青年大会 (主催：日本青年団協議会)	11/13(金)～16(月)	東京都 (東京体育館他)	11 名
第 61 回青森県青年問題研究集会 (主催事業)	3/12(土)～13(日)	青森市 (リンクモア平安閣市民ホール)	7 名

〔成果と課題〕

全国青年大会では、柔道競技において個人で優勝と 3 位、団体 3 位という好成績を収めるなどして、全国各地の青年達との交流を深めることができた。しかし、県内各地の青年団活動の衰退、加盟団員数の減少により、県大会等への参加者が集まらず、本来の目的である県内の青年たちの交流が果たせているとは言い難い状況であることから、県内青年活動の振興について青年団事務局との連携を密にし、青年大会等や県内での活動を奮起させる必要がある。

青森県地域婦人団体連合会補助事業

〔事業目的及び概要〕

県内の地域における女性の活動の振興を図ることを目的として、青森県地域婦人団体連合会が実施する事業に対して助成を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

青森県地域婦人団体研修大会への助成

- 開催期日 : 8/28 (金)
- 開催場所 : ホテル青森
- 参加者数 : 280 名
- 研修テーマ：「エネルギーの将来を考える」～エネルギーの消費はこのままでいいの～

〔成果と課題〕

青森県地域婦人団体連合会は、全市町村に下部組織を有し、女性の地位向上と明るく豊かな地域社会の創造を目的に活動している。今年度の本研修大会は、「エネルギーの将来を考える」～エネルギーの消費はこのままでいいの～のテーマの基、いまだ安定しないエネルギーの事情を正しく捉え、長年培ってきた実績を活かしながら望ましい社会構築に貢献する等、今日的な課題について学ぶ機会となっている。

平成 27 年度で補助事業は終了となるが、女性の社会参加の推進及び社会教育活動の振興に向け、情報提供等により、青森県地域婦人団体連合会との連携を進めていく必要がある。

県立図書館

県立図書館資料整備

〔事業目的及び概要〕

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的として、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 受入資料数 (H27/4/1～H28/3/31)

区分	受入資料数
県立図書館（本館）	16,090 冊
市町村等協力用	4,005 冊
近代文学館	3,856 冊
合 計	23,951 冊

(2) 図書館利用状況 (H27/4/1～H28/3/31)

図書館利用者数	347,646 名		
近代文学館利用者数	61,182 名		
年間利用資料数	一般閲覧室	172,001 冊	※アウトリーチサービス 身障者等への配本サービス
	児童閲覧室	53,091 冊	
	オンライン貸出	7,292 冊	
	新聞未合冊等	6,463 冊	
	アウトリーチ(全体の内数)	(816 冊)	
	市町村一括(協力)貸出等	41,724 冊	
	計	280,571 冊	
年間登録者数	新規登録者数	3,777 名	※うち、アウトリーチ総登録者数を含む。
	総登録者数	20,174 名	

(3) 市町村図書館等への貸出の状況 (H27/4/1～H28/3/31)

相互貸借 (県立図書館からの貸出)	県内市町村立図書館等	5,021 冊
	県外公共図書館等	785 冊
	計	5,806 冊
団体一括貸出		29,348 冊
集団読書用図書		166 冊

市町村立図書館等職員研修事業

〔事業目的及び概要〕

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を図ることを目的として、初任者研修及び実務研修を実施するとともに、相互協力事業を円滑に行うために青森県立図書館事業等担当者会議を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 青森県立図書館事業等担当者会議

ア 開催日	5/13 (水)
イ 場所	県立図書館
ウ 参加者	市町村立図書館等職員 41 名
エ 内容	青森県立図書館と市町村立図書館等の間で行われる相互協力事業に関する説明

(2) 初任者研修①

ア 開催日	5/27 (水)
-------	----------

イ 場所	県立図書館
ウ 受講者	勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	市町村立図書館等職員 28名、学校図書館業務担当職員 14名
オ 内容	一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修 「図書館サービス概論等の講義」

(3) 初任者研修②

ア 開催日	6/11 (木)
イ 場所	県立図書館
ウ 受講者	勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	市町村立図書館等職員 32名、学校図書館業務担当職員 6名
オ 内容	一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修 「資料管理に関する講義と演習」

(4) 初任者研修③

ア 開催日	6/25 (木)
イ 場所	県立図書館
ウ 受講者	勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	市町村立図書館等職員 26名、学校図書館業務担当職員 3名
オ 内容	一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修 「児童サービス、レファレンス・サービス」

(5) 実務研修

ア 開催日	10/6 (火)
イ 場所	県立図書館
ウ 受講者	市町村立図書館、公民館図書室等の職員（館長を含む）及び学校図書館の業務を担当する職員、その他希望者
エ 参加者	市町村立図書館等職員 26名、学校図書館業務担当職員 4名
オ テーマ	コレクションづくりの考え方と実際
カ 講師	京都橘大学 文学部 教授 明定 義人

[成果と課題]

青森県立図書館事業等担当者会議では、県立図書館が実施している市町村立図書館等への支援事業の活用の促進と、県立図書館と各市町村立図書館等との連携が図られた。

初任者研修では、新たに図書館に勤務することとなった市町村職員等が、図書館の理念やサービスについて理解し、各館での円滑な日常業務の遂行に寄与した。

また、実務研修では、市町村立図書館等から要望のあったテーマを取り上げることにより、市町村立図書館等のサービス質の向上や、各館における取組みの見直し等、利用者サービスの向上に繋がった。

いずれの研修等も、各市町村立図書館等の職員のニーズを踏まえた研修内容の提供とよりわかりやすい説明、意見交換の場として活用していくことが今後さらに必要である。